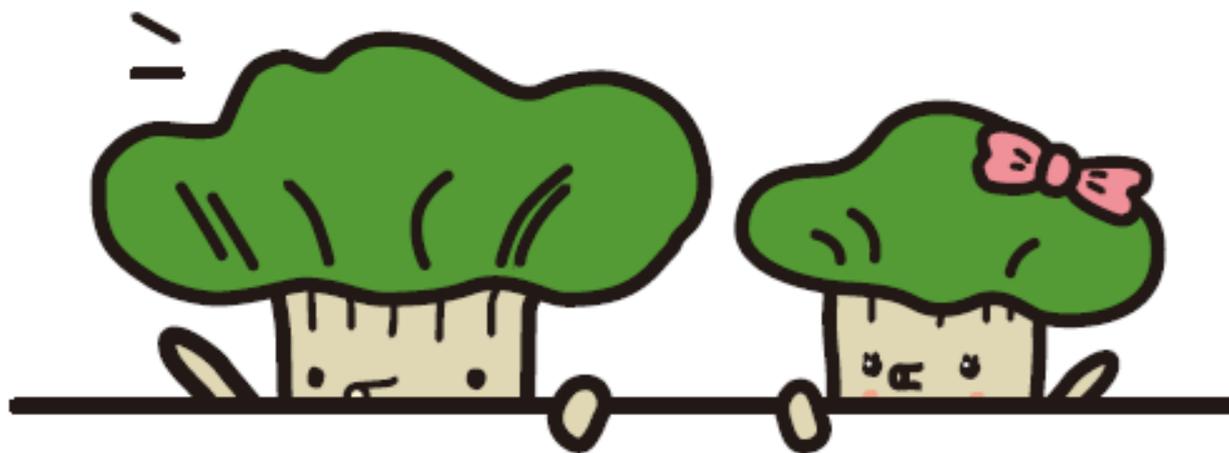


2024年3月期 決算

決算概況と第5次中期5カ年経営実行計画の見直しについて



つなぐを化学する  
荒川化学工業株式会社

2024.5.28

# 目次

**1** 決算概況と今期予想

**2** セグメント別情報・経営指標

**3** 第5次中期5カ年経営実行計画の見直しについて

**4** サステナビリティへの取り組み

参考資料

**1**

# 決算概況と今期予想

# 決算概況と今期予想

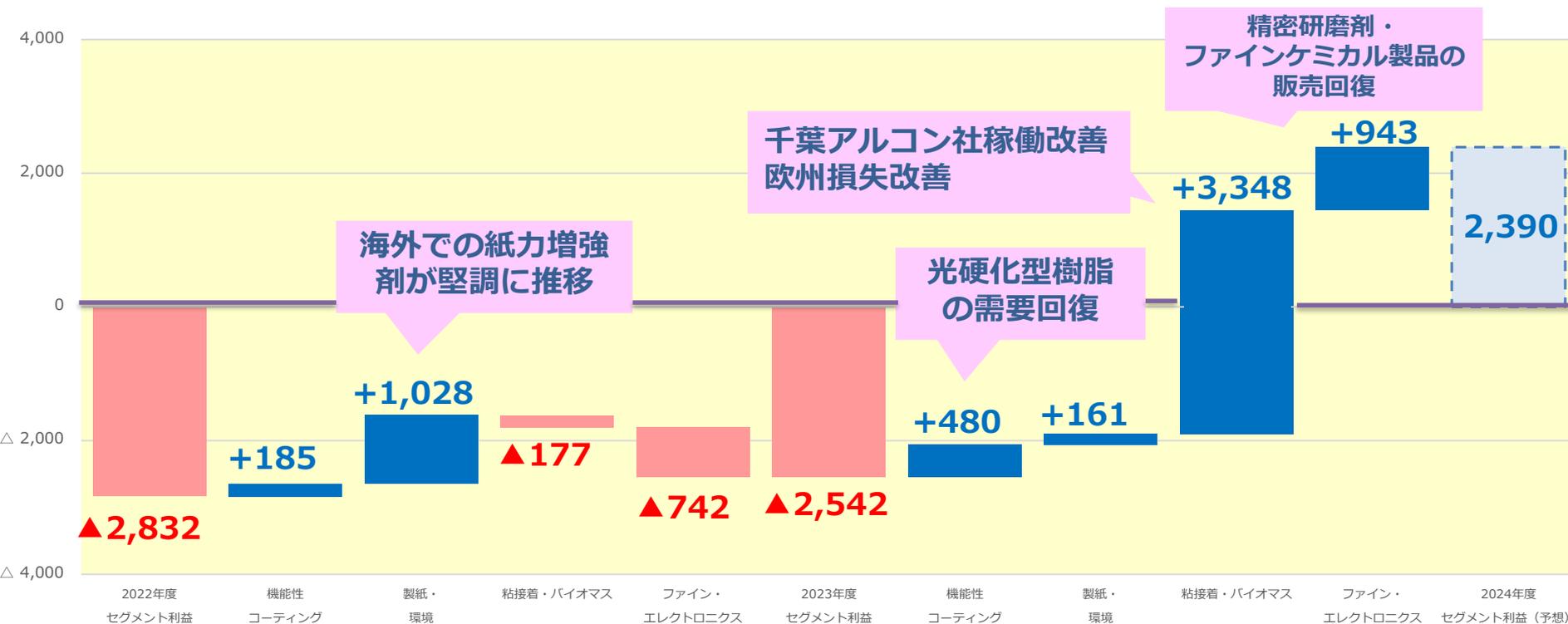
上段：百万円 下段：増減率	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (予想)
売上高	70,572	80,515	79,431	72,222	82,000
	△3.3 %	14.1 %	△1.3 %	△9.1 %	13.5 %
営業利益	3,257	3,304	△2,907	△2,617	2,000
	26.5 %	1.4 %	—	—	—
経常利益	3,652	3,566	△2,687	△2,412	1,500
	24.8 %	△2.3 %	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,169	1,502	△4,941	△1,042	1,800
	25.3 %	△30.7 %	—	—	—
EBITDA	6,423	6,500	1,569	3,190	7,700
	11.9 %	1.2 %	△75.9 %	103.3 %	141.3 %
ROE	4.0 %	2.6 %	△8.7 %	△1.9 %	3.2 %

【2023年度 予算】 為替レート的前提条件 ① 1 USD = 140円 ② 1 EUR = 145円

【2024年度 予算】 為替レート的前提条件 ① 1 USD = 145円 ② 1 EUR = 155円

# 黒字化のポイント

連結セグメント利益	2022年度		2023年度		2024年度 (予想)	
	百万円	増減 (%)	百万円	増減 (%)	百万円	増減 (%)
機能性コーティング	335	△ 69.0	520	55.2	1,000	92.0
製紙・環境	310	△ 67.9	1,339	330.9	1,500	12.0
粘接着・バイオマス	△ 3,871	—	△ 4,048	—	△ 700	—
ファイン・エレクトロニクス	349	△ 36.7	△ 393	—	550	—
合計	△ 2,832	—	△ 2,542	—	2,390	—



## **2** セグメント別情報・経営指標

# セグメント別売上高

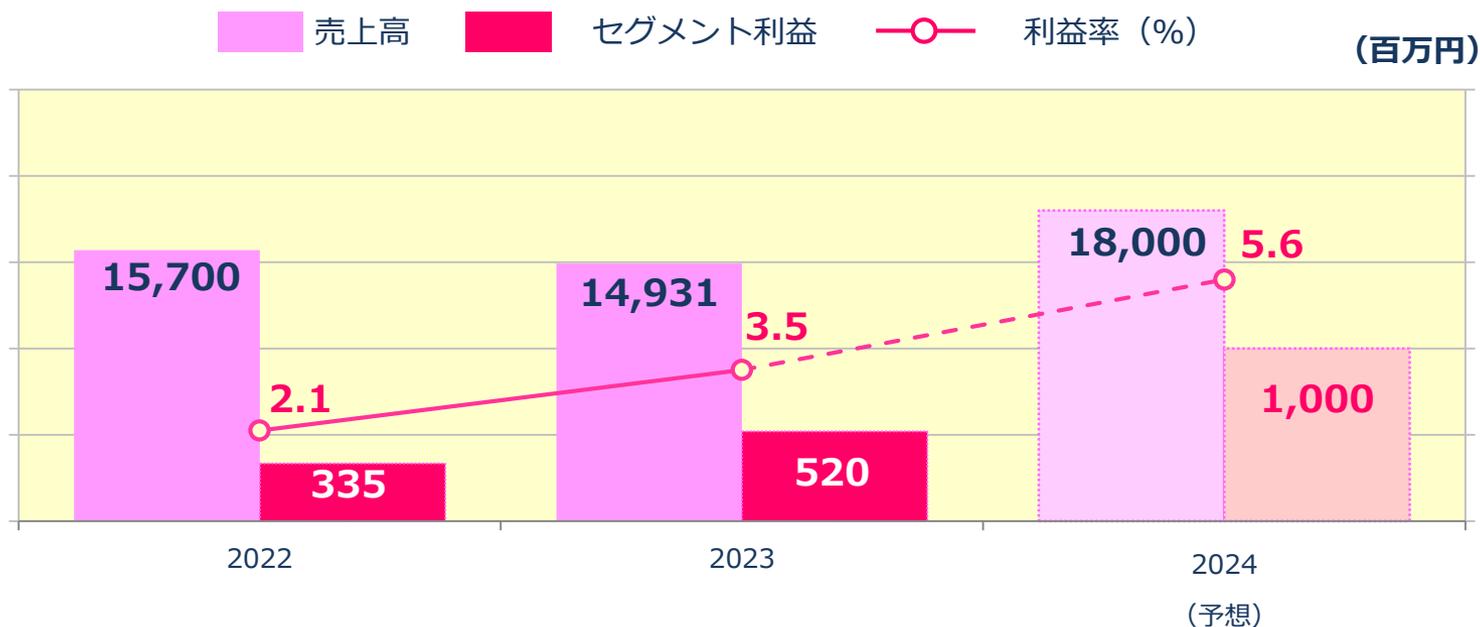


機能性コーティング	光硬化型樹脂、熱硬化型樹脂、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂 等
製紙・環境	紙力増強剤、サイズ剤、新規水系ポリマー 等
粘接着・バイオマス	水素化石油樹脂、粘着・接着剤用樹脂、超淡色ロジン、合成ゴム重合用乳化剤 等
ファイン・エレクトロニクス	精密部品洗浄剤および洗浄装置、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル製品、電子材料用配合製品、精密研磨剤 等

- 光硬化型樹脂はスマートフォンやディスプレイ関連分野での在庫調整が一巡し、下期から需要回復の兆しが見られた
- 印刷インキ用樹脂は出版分野の市場縮小が加速しており、売上高が減少

## 2024年度見通し

- 主力製品である光硬化型樹脂の需要が回復に向かう見込み

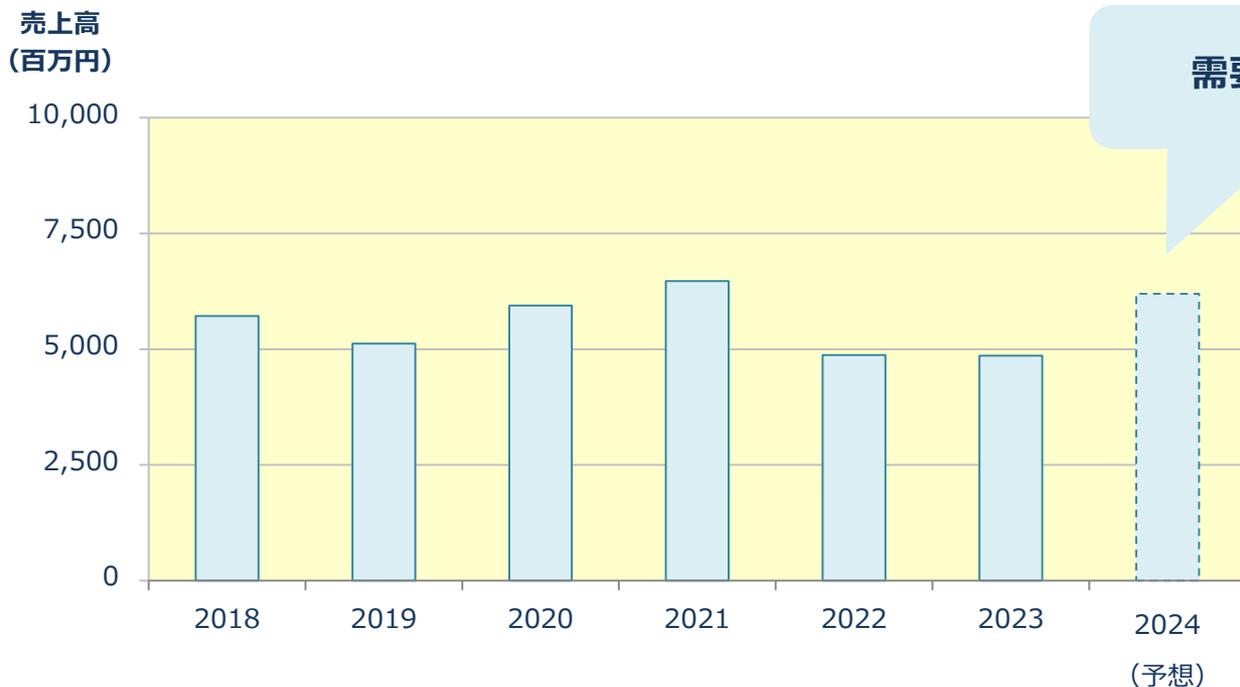


# 光硬化型樹脂（ビームセット・オプスター）



 : サステナビリティ製品

- 光で瞬時に固まり、省エネルギー、環境負荷低減（VOC削減）
- 要求特性を実現する樹脂設計と配合技術力
- フィルムコーティングの高機能化に
- 生産能力増強：富士工場の新生産設備（2024年2月完工）



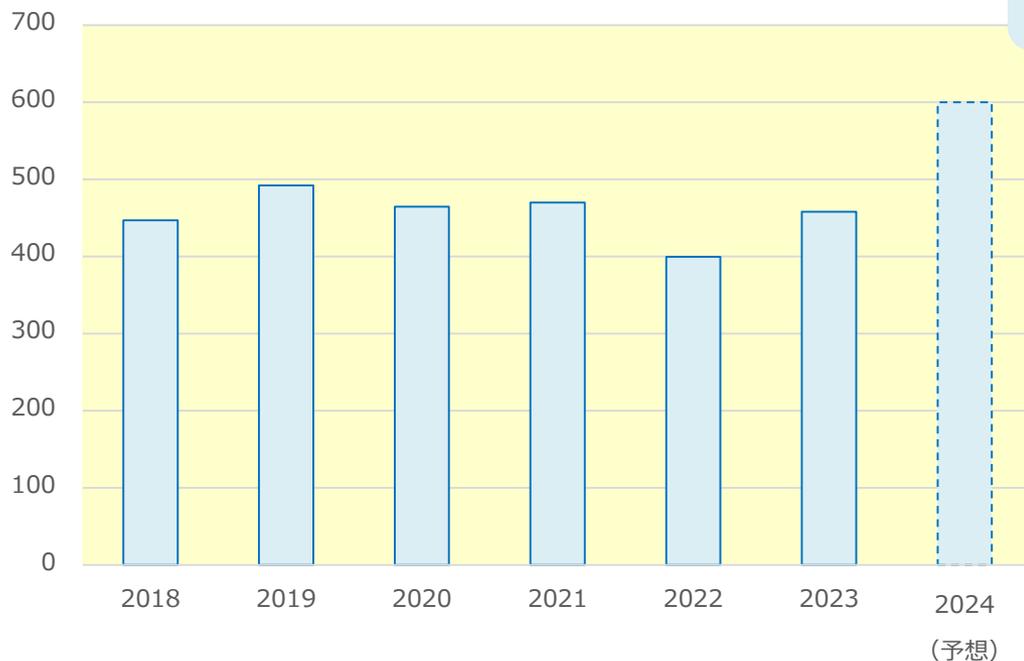
需要回復見込み



# 熱硬化型樹脂 (アラコート)

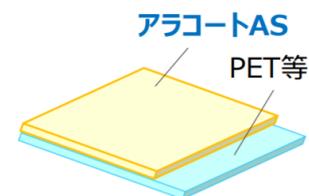
- 長年のインキ・塗料分野で培った高分子合成技術、二液硬化技術、配合技術を駆使して開発した熱硬化型機能性コーティング剤
- フィルムコーティングの**高機能化**に
- 「機能」を追求し、多様化するニーズに適した「解」を提案

売上高 (百万円)



工程用フィルムへの新規採用

(層構成例)

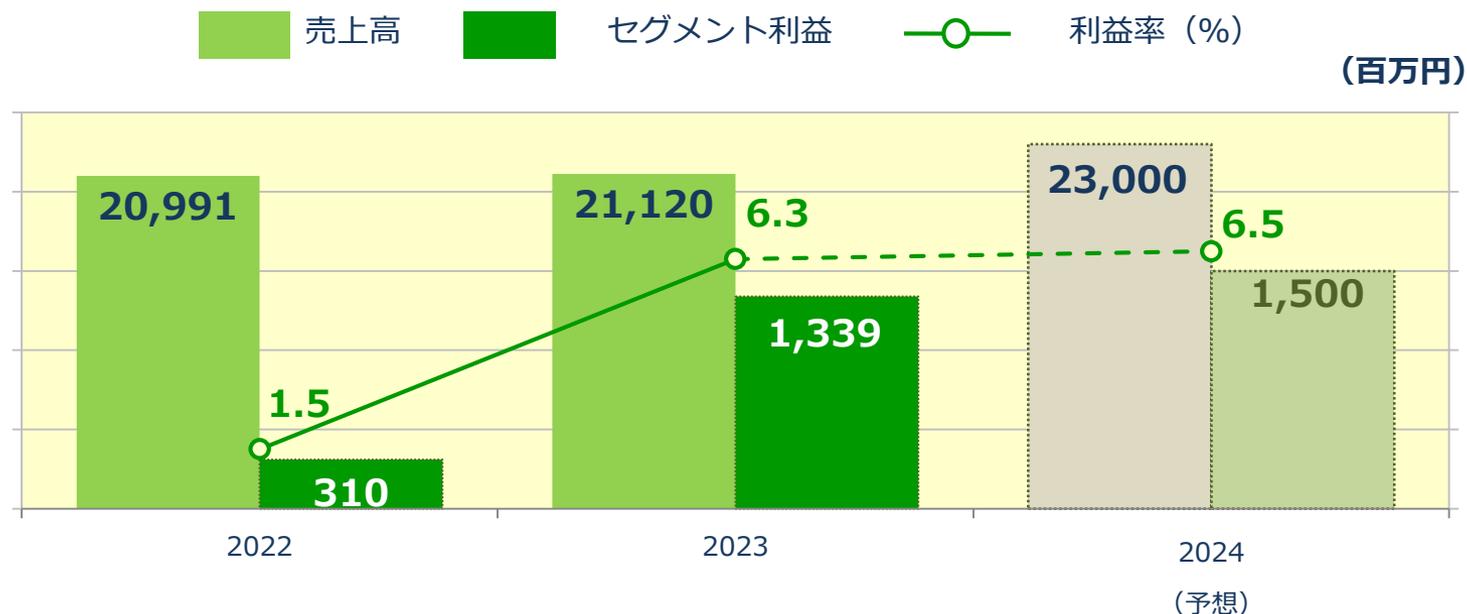


- 帯電防止コーティング剤
- 離型コーティング剤
- UVコーティング用アンカー剤
- 蒸着用アンカー剤
- 熱硬化型自己修復コーティング剤

■ 国内での原材料価格やエネルギーコストの高止まりや需要低迷の影響を受けるも、海外での板紙向け紙力増強剤が堅調に推移し、収益性が改善

2024年度見通し

■ 引き続き海外での紙力増強剤などの販売増加や国内での収益性改善に努める



# 紙力増強剤 (ポリストロン)

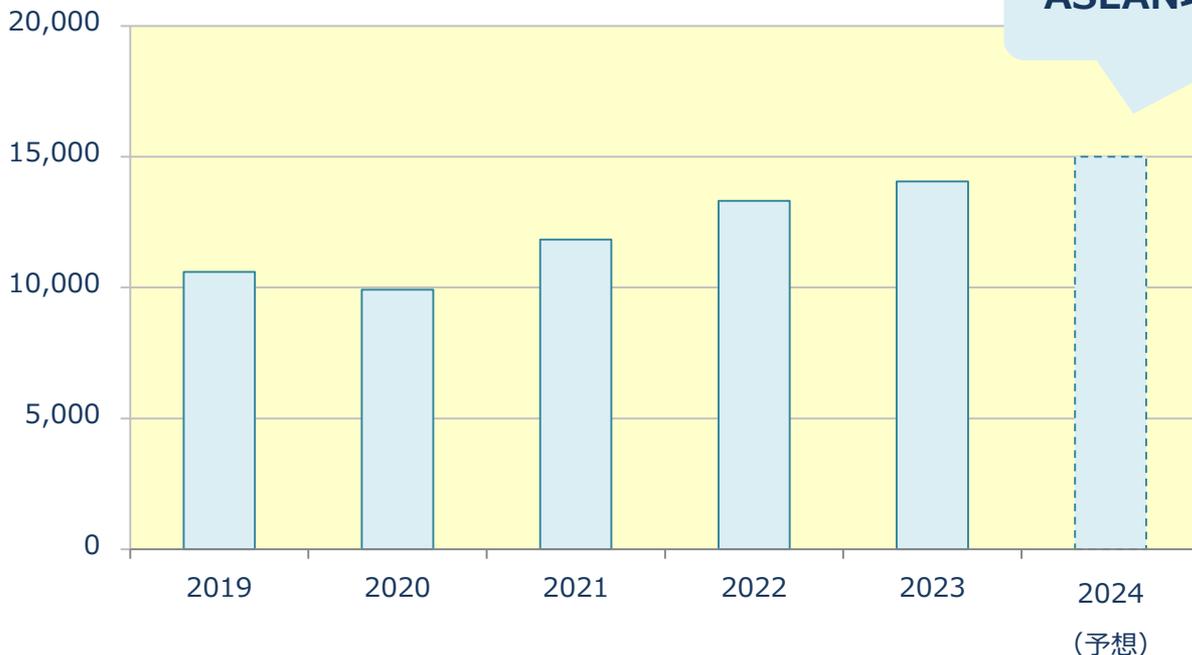


: サステナビリティ製品

- パルプ繊維同士をつなぎ、紙の力を向上させる
- ポリアクリルアミド (PAM) 系紙力増強剤の拡大  
⇒ 販売地域を中国・台湾からASEANに拡大し、**古紙リサイクル促進に貢献**
- 荒川ケミカルベトナム社が2022年3月に稼働し、生産・販売を開始  
⇒ **ASEAN向けのさらなる拡販による成果の最大化を目指していく**

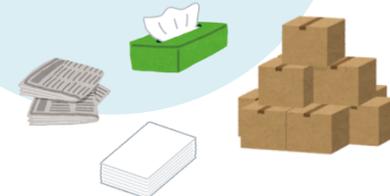


売上高 (百万円)



ASEAN地域での拡販が進む

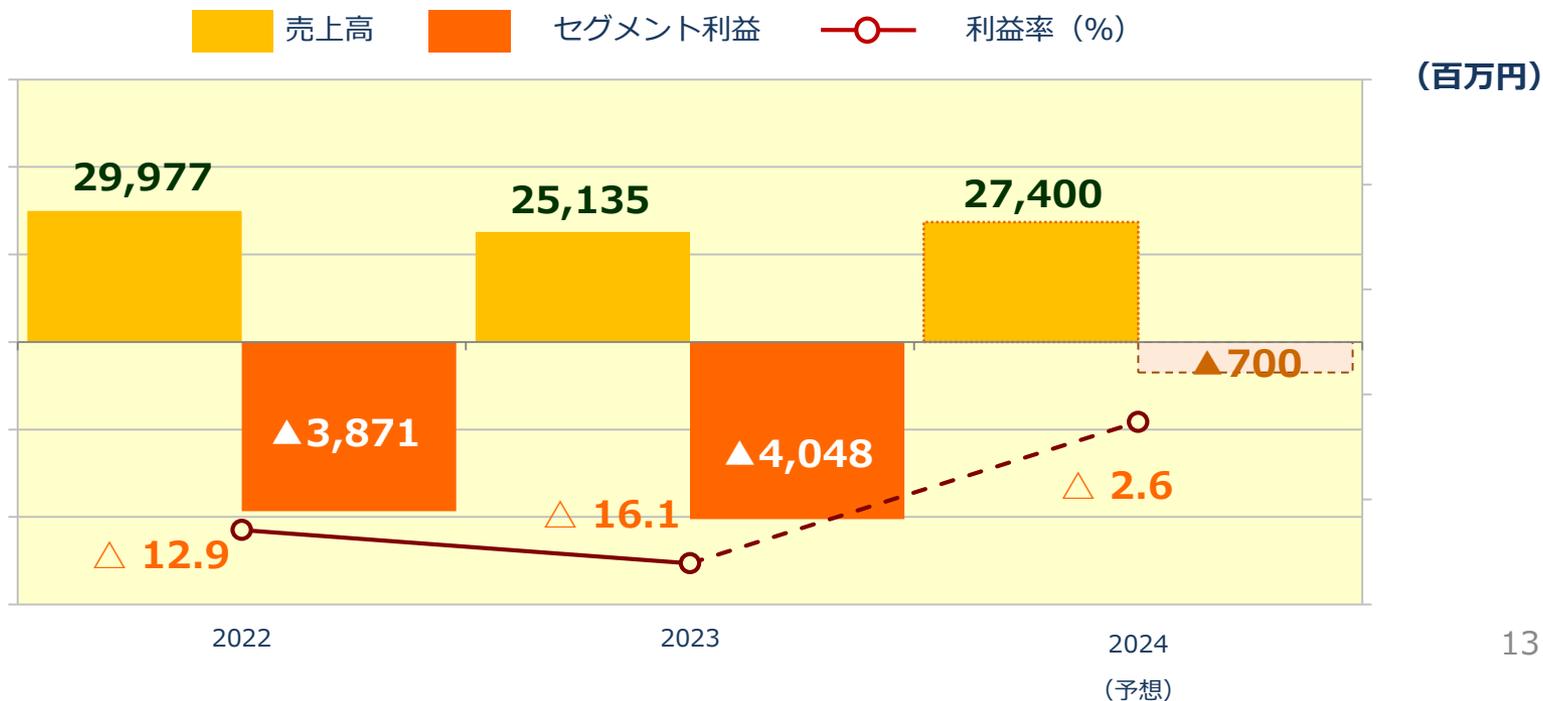
- 板紙向け紙力増強剤  
⇒ 段ボールの薄型化に対応
- 上質紙・コート原紙等の洋紙  
まで幅広い用途に使用



- ロジンや石化原料の価格の高止まりに加え、千葉アルコン製造株式会社において当期の減価償却費負担に見合った生産量には至らぬ状況から、販売が低調に推移

### 2024年度見通し

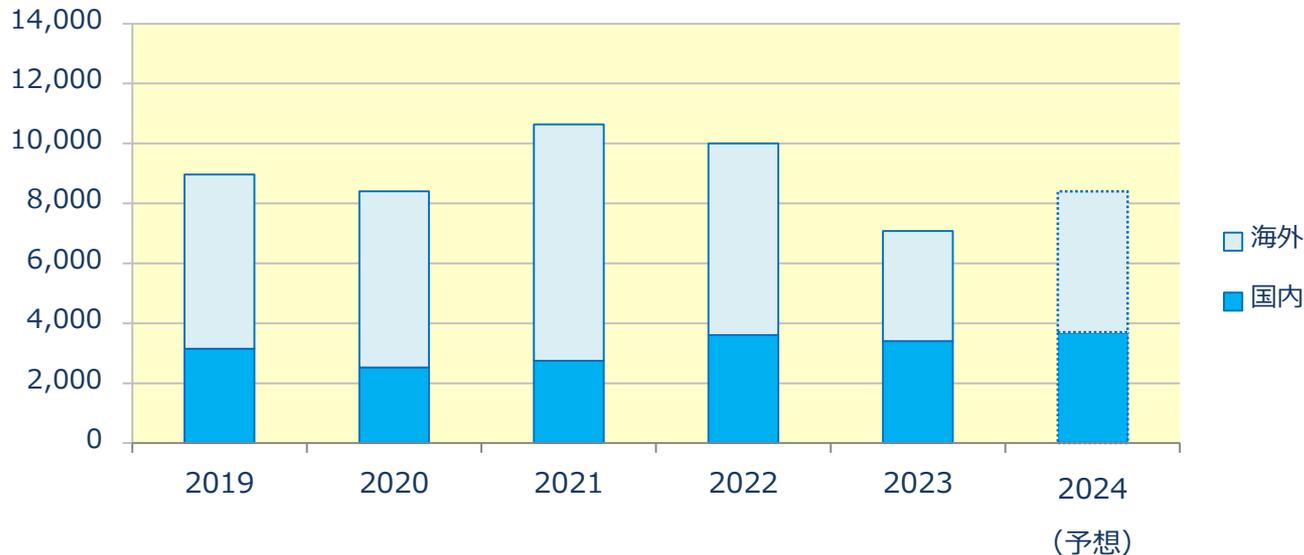
- 自動車関連分野を中心に粘着・接着剤用樹脂の需要は徐々に回復し、中国・台湾での需要回復を見込む
- 千葉アルコン製造での水素化石油樹脂の販売が寄与し、セグメント損失は大幅な赤字縮小を見込む



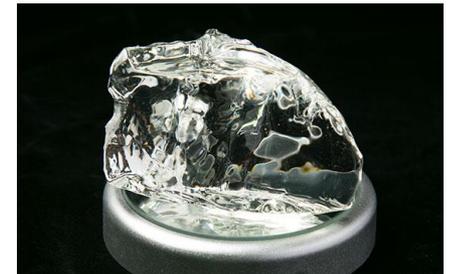
# 水素化石油樹脂 (アルコン)

- **世界で初めて工業化に成功** (1965年上市)
- コスモEHD(株)、丸善石油化学(株)と3社合併で**2018年2月に千葉アルコン製造(株)を設立**  
2023年5月下旬に連続運転を開始、各グレードにおいて顧客評価を順次実施中
- **荒川ヨーロッパ社 (ドイツ) における製造終了 (2023年4月初旬)**  
⇒水島工場と千葉アルコン製造の2拠点体制でのグローバル販売戦略の再構築
- **高付加価値分野での用途開発に注力**⇒日本に加え、米中市場でも伸長させていく  
高い軟化点が要求されるプラスチック用途  
透明性や機械的強度を付与するフィルム改質剤

売上高(百万円)



▼水素化石油樹脂「アルコン」



# 超淡色ロジン (ピンククリスタル)



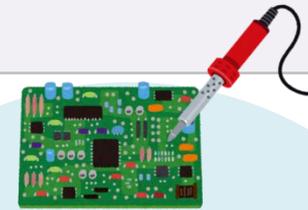
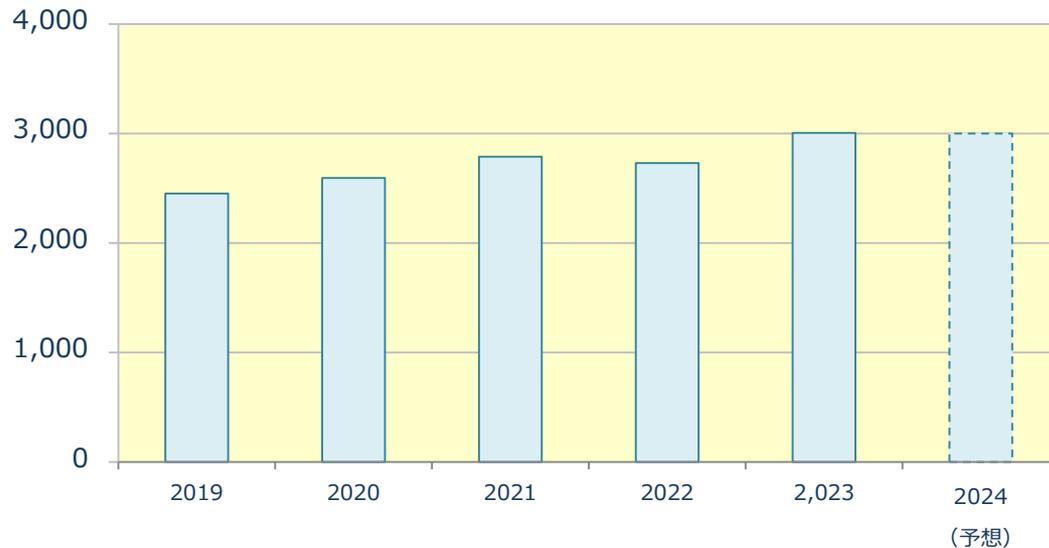
粘接着・バイオマス

 : サステナビリティ製品

- **オンリーワン**製品 (琥珀色のロジンを高圧水素化技術により無色化)
- 鉛フリーはんだ用フラックスの**業界標準**
- **ライフサイエンス**分野にも進出



売上高  
(百万円)



■ 鉛フリーはんだ用フラックス



■ 医療用貼付剤



■ 3Dプリンター関連部材

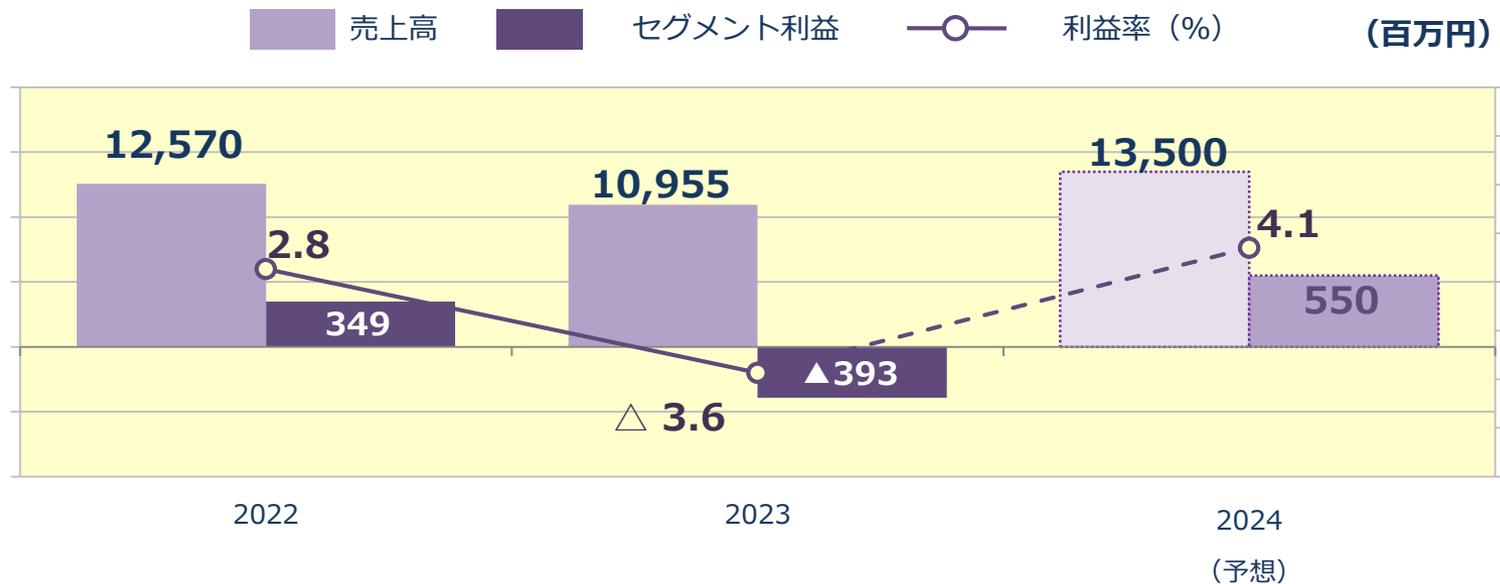
■ 光学フィルム関連部材

- **ほぼ無色、不純物が少ない**
- **熱安定性がよい**

- 電子部材などの需要が低調に推移し、一部で緩やかな回復が見られるも、  
高圧化学工業のファインケミカル製品および山口精研工業の精密研磨剤、  
精密部品洗浄剤などが低調に推移

## 2024年度見通し

- データセンターへの投資の回復や半導体需要に伴う精密研磨剤、  
ファインケミカル製品の拡販を見込む



# 精密研磨剤 (Neopolish)

## 山口精研工業

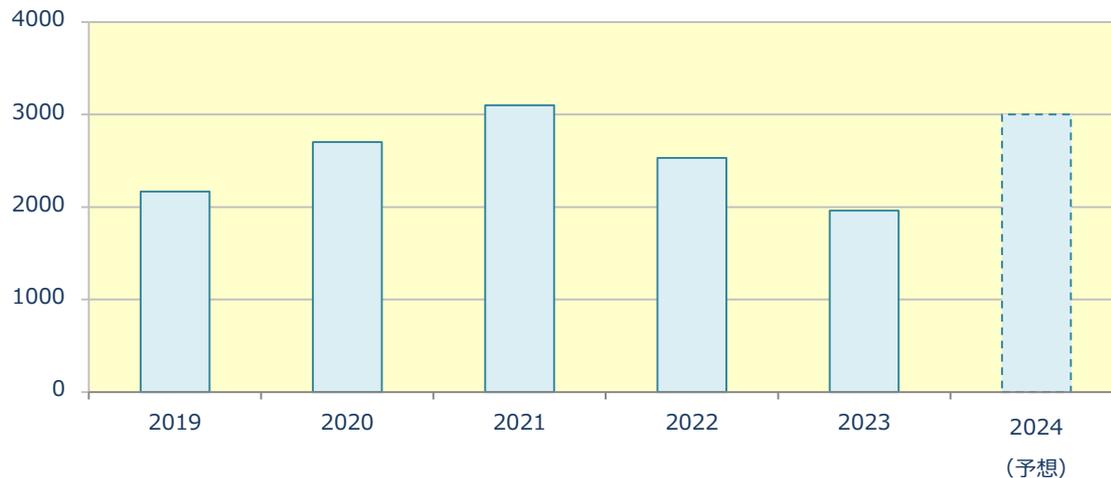
ノートPC等の市場はSSDが優勢も、大容量化が進むデータセンター市場はHDDの需要拡大。HDD基板は高容量のための薄型化、面品質の向上とコスト削減でアルミ基板とガラス基板がしのぎを削る。

- アルミ磁気ディスク用研磨剤を主体に各種金属などの鏡面研磨剤を扱う
- 薄型化に対応した研磨剤開発に注力
- 生産能力増強：第2工場完工、需要増加に備える

第2工場 外観



売上高  
(百万円)



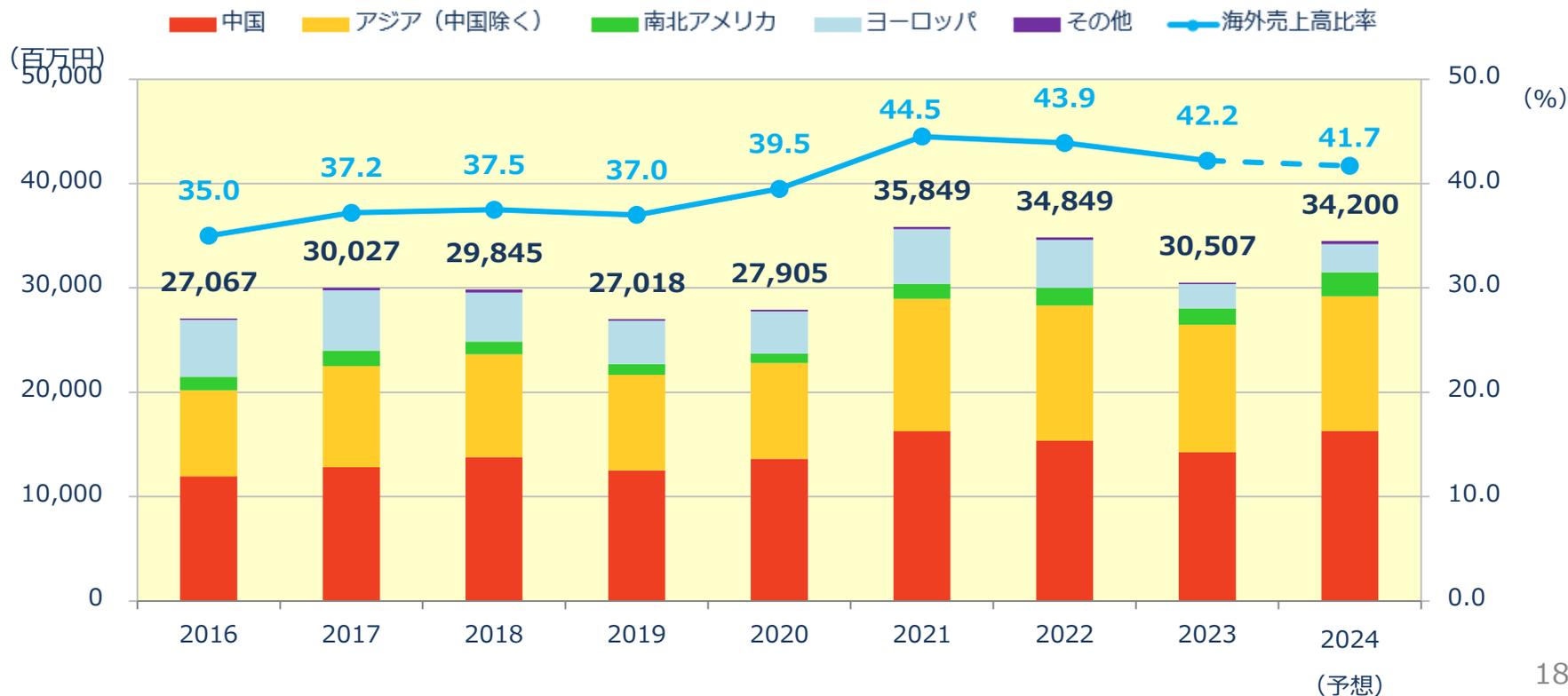
- HDD用アルミ基板
- SAWデバイス用基板

# 海外売上高・比率 推移

- 荒川ヨーロッパ社（ドイツ）の製造中止にともなう販売数量の減少や、中国の需要低迷もあり  
海外売上高比率は低下

## 2024年度見通し

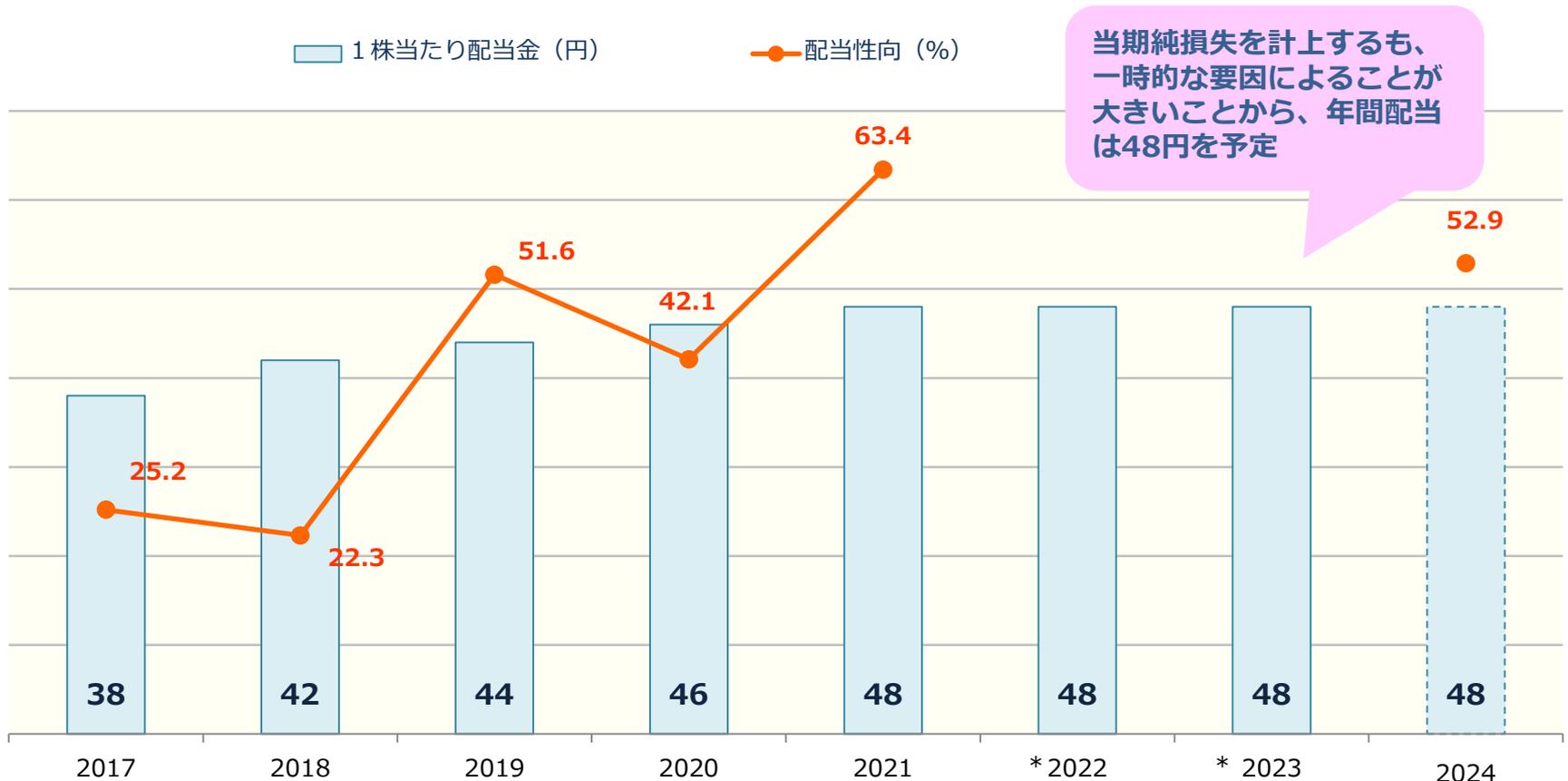
- 千葉アルコン製造の水素化石油樹脂の輸出や、荒川ケミカルベトナム社の紙力増強剤の  
アジア地域での拡販、中国での粘着・接着剤用樹脂の需要回復を予想



# 配当金の推移

## 基本方針

安定的かつ継続的な配当を維持しつつ、積極的な株主還元策に取り組む



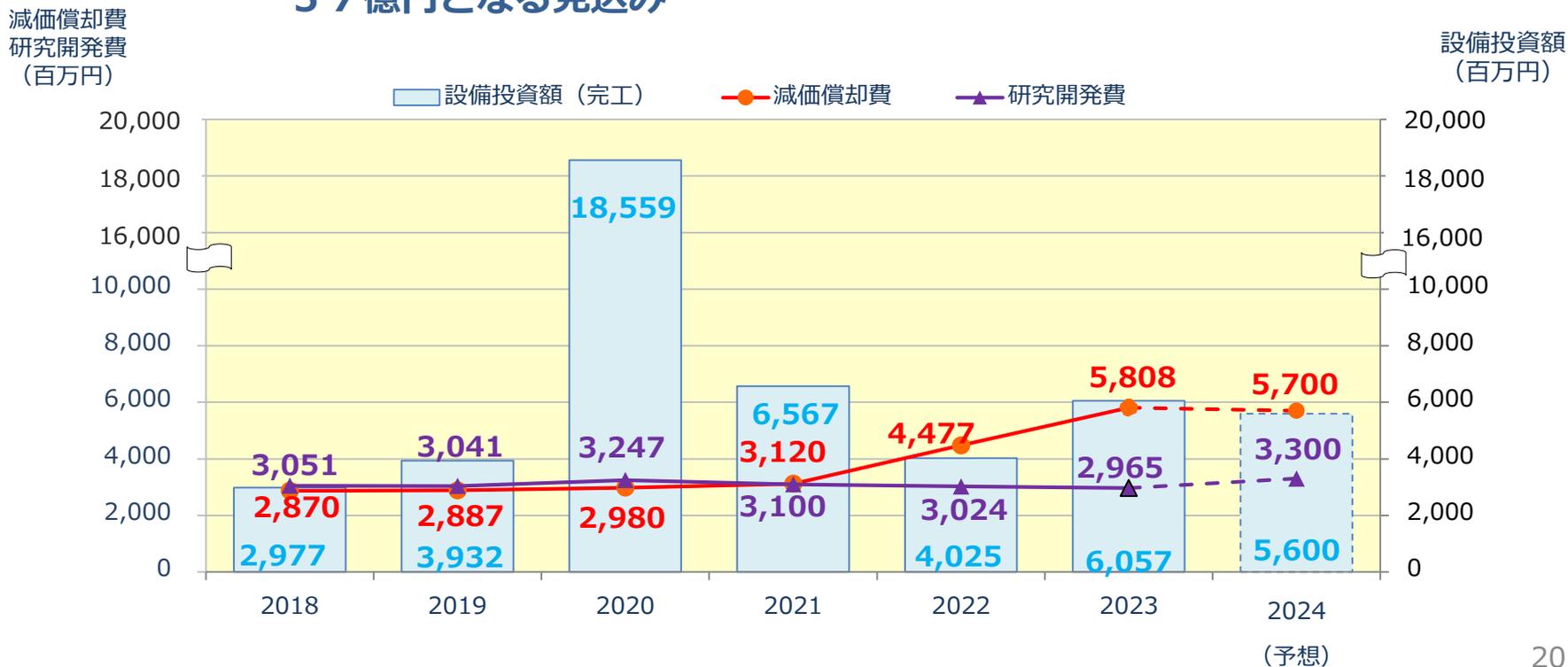
\*2022年度・2023年度は当期純損失のため、配当性向を記載しておりません

(予想)

# 設備投資および研究開発費

## 2024年度見通し

- ・設備投資：水島工場でのファインケミカルプラント建設の投資があり、56億円となる見込み
- ・減価償却：千葉アルコン製造・2023年度に完成した富士工場の光硬化型樹脂プラント・山口精研工業の第2工場の償却費計上予定のため、57億円となる見込み



# 総資産・有利子負債推移

(百万円)

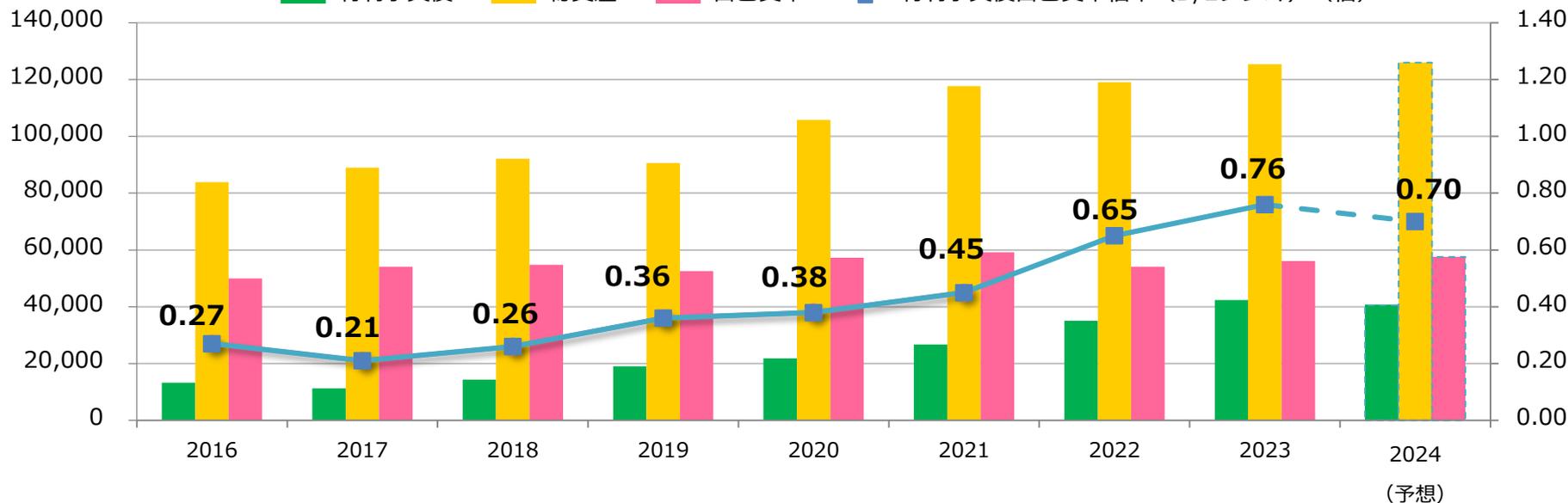
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
有利子負債	13,300	11,269	14,349	19,045	21,789	26,680	35,052	42,388	40,500
総資産	83,898	89,019	92,174	90,600	105,757	117,739	119,035	125,418	126,000
自己資本	49,915	54,123	54,747	52,546	57,228	59,184	54,082	56,134	57,550
自己資本比率 (%)	59.5	60.8	59.4	58.0	54.1	50.3	45.4	44.8	45.7
有利子負債自己資本倍率 (D/Eレシオ) (倍)	0.27	0.21	0.26	0.36	0.38	0.45	0.65	0.76	0.70

\* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を2018年度の期首から適用しており、2017年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(百万円)

■ 有利子負債 ■ 総資産 ■ 自己資本 ■ 有利子負債自己資本倍率 (D/Eレシオ) (倍)

(%)



# 3

## 第5次中期5カ年経営実行計画の見直しについて

# 第5次中期5カ年経営実行計画について

2021～2025年度

## **V-ACTION** for sustainability

人と事業の新陳代謝の深化、事業基盤の持続性を確保し、

持続可能な地球環境と社会を実現するための課題に取り組み、

付加価値・新規事業の創出、安全文化の醸成、および働きがいと生産性の向上を目指す

### 中計見直しについて

- ・ 基本方針は変更せず、**最終2025年度**の計数目標と施策を見直し
- ・ 拠点やプラントの統廃合を含む既存事業の新陳代謝の加速と収益力の回復
- ・ 新規事業のステージアップ推進（みつける⇒そだてる⇒のばす）
- ・ 経営資源投入の機動性向上（安全文化の醸成、働きがいと生産性向上、人的資本投資等）
- ・ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

# 財務目標（連結）

(百万円)

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	2025年度 当初目標	2025年度 修正目標
売上高	80,515	79,431	72,222	82,000	90,000	90,000
営業利益	3,304	△2,907	△2,617	2,000	6,500	3,500
経常利益	3,566	△2,687	△2,412	1,500	6,500	3,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,502	△4,941	△1,042	1,800	4,500	2,100
営業利益率 (%)	4.1	△3.7	△3.6	2.4	7.2	3.9
EBITDA* (%)	6,500/8.1	1,569/2.0	3,190/4.4	7,700/9.4	11,200/12.4	8,700/9.7
ROE (%)	2.6	△8.7	△1.9	3.2	7.0	3.6
ROIC (%)	4.9	△3.1	△2.5	2.2	-	4.0
配当性向 (%)	63.4	-	-	52.9	40%を目標とする	
1株あたりの配当額 (円)	48	48	48	48		

\* EBITDA：償却前営業利益＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

(参考) 投資額	2021年度	2022年度	2023年度 実績	2024年度 予想	2025年度 予想
設備投資額*1	6,567	4,025	6,057	約5,600	約4,000
減価償却費	3,120	4,477	5,808	約5,700	約5,200
うち千葉アルコン製造(株)	-	1,043	2,315	約1,900	約1,600
新規事業投資額*2	100	150	306	約600	約1,200

\*1当初目標(5年間累計)：約250億円 修正目標(5年間累計)：約260億円

\*22025年度までのライフサイエンス等の新規事業分野への設備投資・出資額（コーポレート）

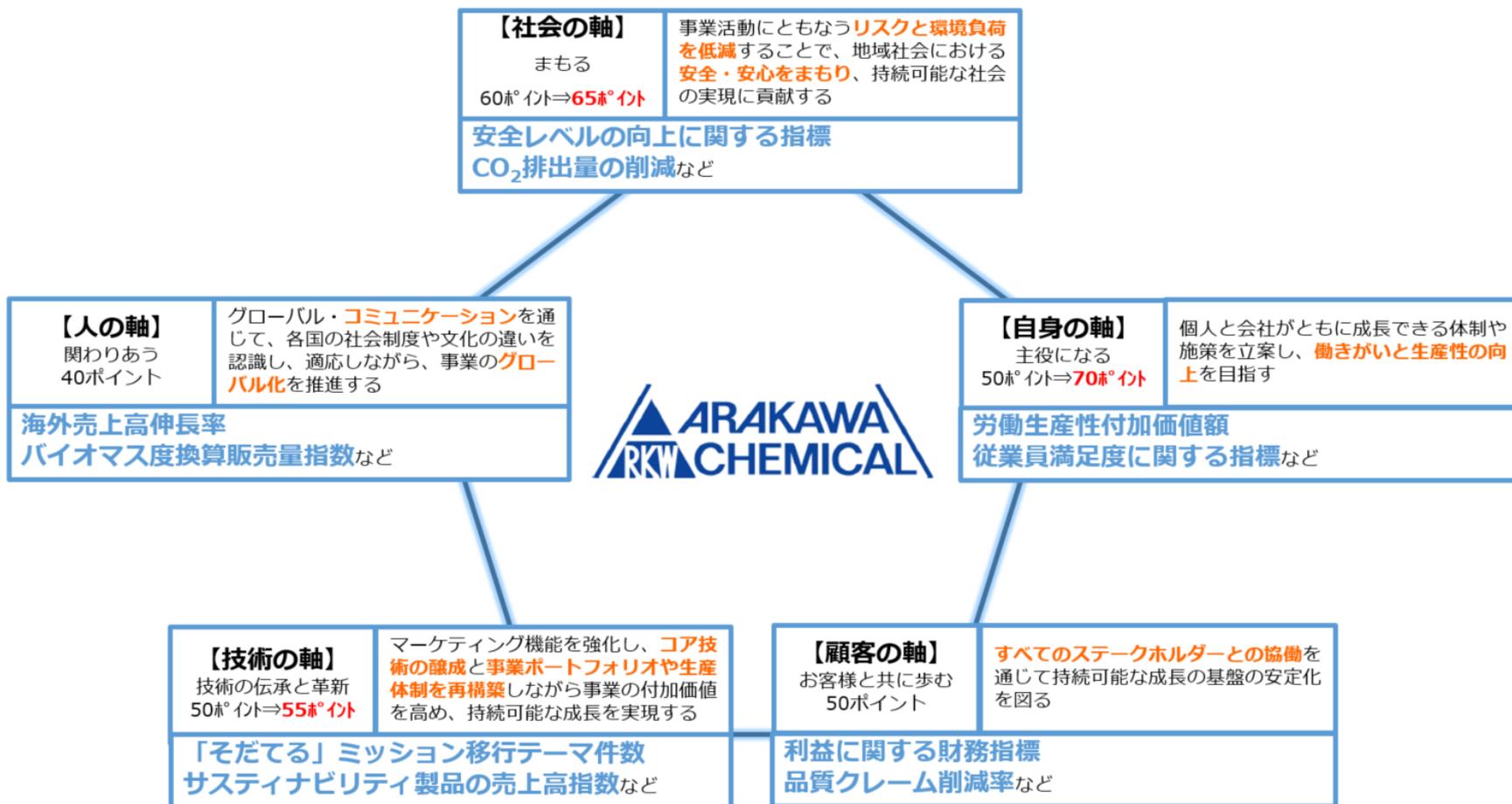
# 財務目標（連結・セグメント別）

（百万円）

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	2025年度 当初目標	2025年度 修正目標
機能性 コーティング	売上高	16,226	15,700	14,931	18,000	20,000	20,000
	セグメント利益	1,082	335	520	1,000	2,100	1,600
製紙・環境	売上高	18,652	20,991	21,120	23,000	20,000	23,500
	セグメント利益	969	310	1,339	1,500	1,250	1,600
粘接着・ バイオマス	売上高	32,530	29,977	25,135	27,400	31,000	30,500
	セグメント利益	206	△3,871	△4,048	△700	2,100	400
ファイン・ エレクトロニ クス	売上高	12,826	12,570	10,955	13,500	18,000	15,500
	セグメント利益	552	349	△393	550	1,800	700
その他	売上高	279	191	80	100	600	500
	セグメント利益	45	42	38	40	280	80
合計	売上高	80,515	79,431	72,222	82,000	90,000	90,000
	セグメント利益	2,855	△2,832	△2,542	2,390	7,550	4,380
	新規開発投資	△437	△406	△408	△500	△850	△750
	新規開発投資 差引後利益	2,418	△3,239	△2,950	1,890	6,700	3,630

# 5つのKIZUNA/KIZUNA指標

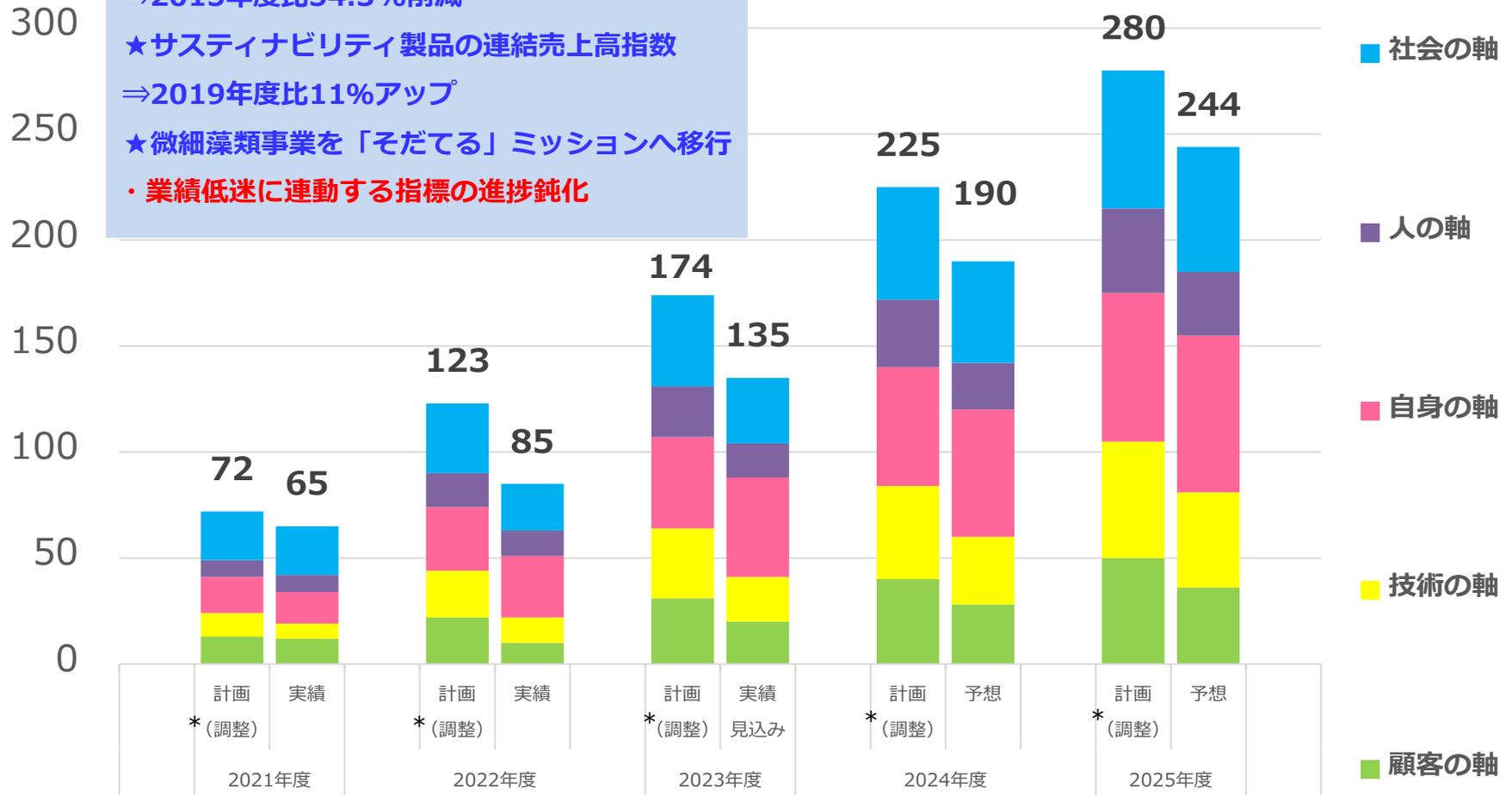
- 5つのKIZUNAとリンクした優先的な重要課題に対する指標を設定
- 達成度に応じてポイント付与（目標ポイントを目指し「ありたい姿」へ）



# KIZUNAポイントの進捗

## 2023年度実績

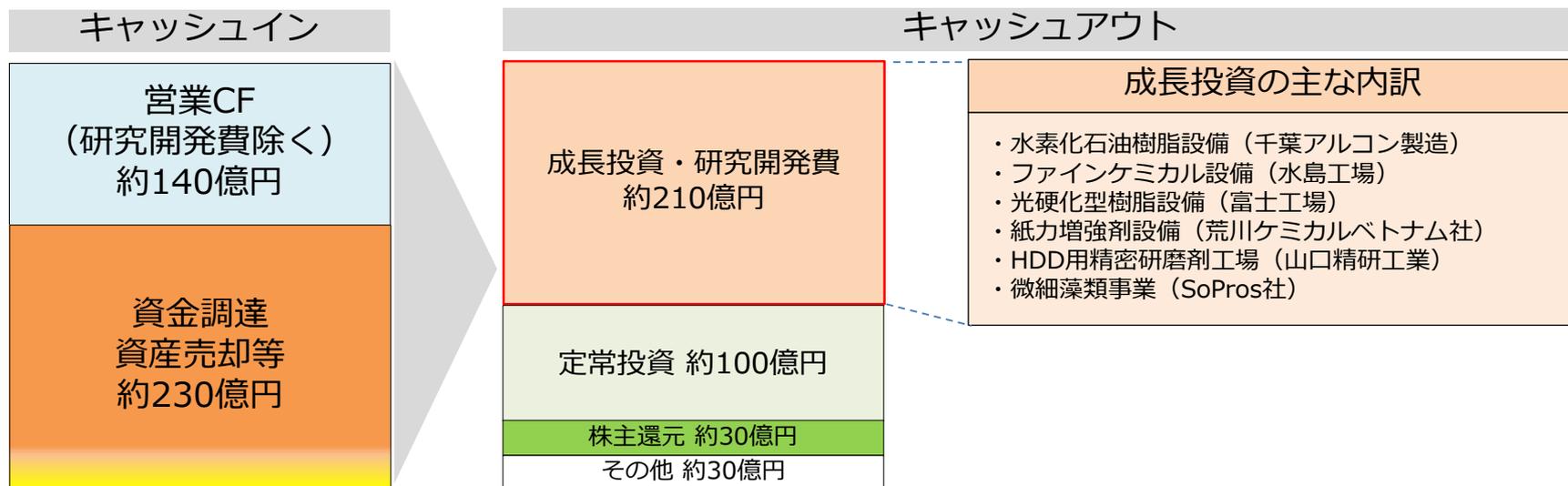
- ★CO<sub>2</sub>排出量の削減  
⇒2015年度比54.3%削減
- ★サステナビリティ製品の連結売上高指数  
⇒2019年度比11%アップ
- ★微細藻類事業を「そだてる」ミッションへ移行
- ・業績低迷に連動する指標の進捗鈍化



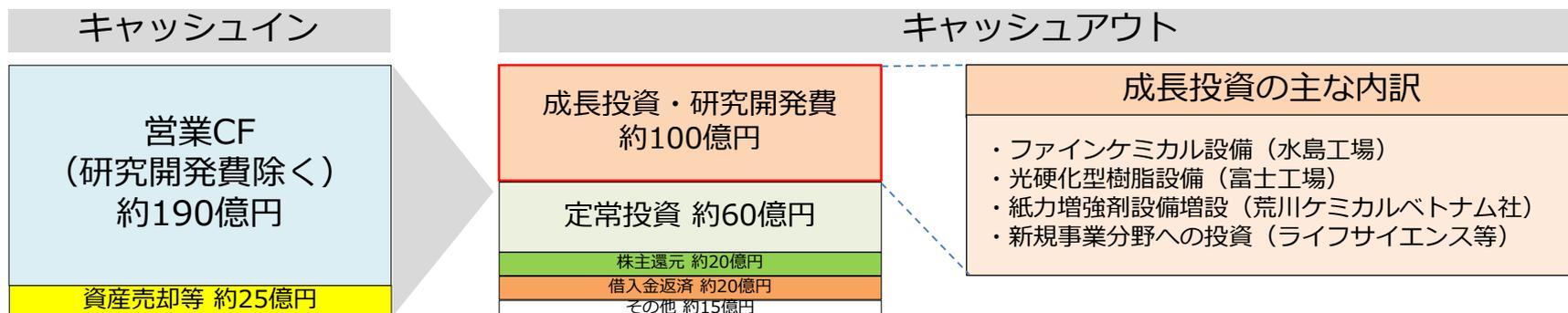
\*サステナビリティ・リンク・ボンドの発行に連動させた指標やプライム市場への移行にともなう追加指標もあり、KIZUNA指標のポイント配分を調整した

# 第5次中計期間における当社のキャッシュ・アロケーション

## 2021-2023年度 3カ年累計（実績）



## 2024-2025年度 2カ年累計（イメージ）



# 重点課題の進捗① 成長市場に向けた生産能力増強

## ファイン・エレクトロニクス事業

ファインケミカル製品

DX

半導体関連  
先端材料

水島工場

【投資金額】約20億円

高圧化学工業と水島の2拠点体制

サプライチェーン強靱化を目的とした国の補助金等に採択



成長市場での  
さらなる拡大

2024年12月

完工予定

## ファイン・エレクトロニクス事業



第2工場 外観

精密研磨剤

DX

HDD用

山口精研工業

【投資金額】約11億円

第2工場として建設

2024年2月

完工

機能性コーティング事業

2023年11月

完工

光硬化型樹脂



富士工場

【投資金額】約20億円

大阪・小名浜・富士  
との3拠点体制

EV・5G

電子部品の工程部材  
ディスプレイ用

# 重点課題の進捗② 新規事業関連

松資源の機能の深堀

新たなバイオマス由来の素材

## ライフサイエンス関連テーマ

水系ポリマーやフォレストケミカル（ロジン）等のコア技術を駆使

### ■再生医療

⇒細胞培養容器用コーティング剤、PDMS親水化剤等を提案

### ■松から得られる天然由来物質の開発品

⇒生理活性物質の探索、アビエチン酸系抗菌・抗バイオフィルム剤

### ■アグリ

⇒種子・肥料コーティング剤、アグリ関連資材

### ■微細藻類

⇒食品、健康食品等



細胞培養容器用コーティング剤



松



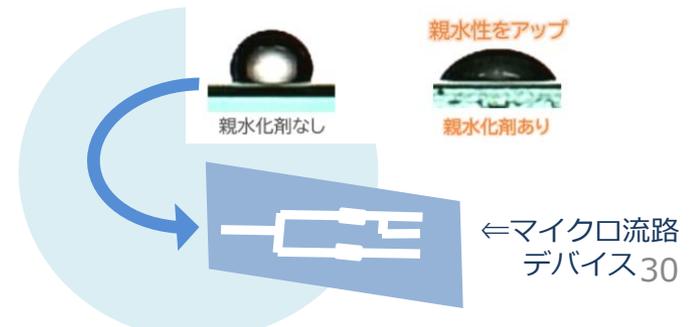
アビエチン酸誘導体

いずれも産官学連携を積極的に推進し、新規事業の創出につなげていく

## 水系ポリマー技術関連

### ■セラミック用バインダー

### ■紙の耐油化剤（プラスチック代替）



# 重点課題の進捗② 新規事業関連

## 微細藻類事業への参入 (2024年1月 SoPros株式会社へ資本参加)

第三者割当増資引受とユニバーサル マテリアルズ インキュベーター株式会社 (UMI) からの株式譲受により当社持株比率45.4%

### オーランチオキトリウム

✓ 菌株

該社独自株 沖縄やんばる産

✓ 特徴

高度不飽和脂肪酸PUFAs

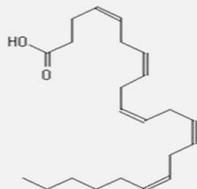
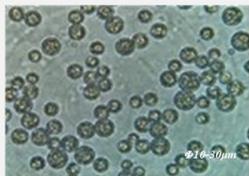
DHA、 $\omega$ -6DPAを高含有

閉鎖系タンク培養可

#### $\omega$ -6 DPA

DocosaPentaenoic Acid

C22:5 n-6 C<sub>22</sub>H<sub>34</sub>O<sub>2</sub>



✓ 微細藻配合食品 → BtoB

✓ 微細藻パウダー → BtoB

ペットフード

水産・畜産飼料向け\*

農薬原体\*

化粧品原料\*

\* 他社と共同開発中

✓ 微細藻配合健康食品 → BtoC

栄養機能食品

BtoB



### 微細藻配合味噌汁

2021年2月

BtoB

藻体含有食品 国内初

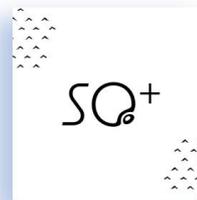


### 微細藻パウダー

2023年4月

BtoB

株式会社ユーグレナ向け



### 微細藻配合健康食品

2023年8月

BtoC 試験販売

SO+ブランディング

※DHA (ドコサヘキサエン酸)

: 脳機能改善作用

$\omega$ -6DPA (ドコサペンタエン酸)

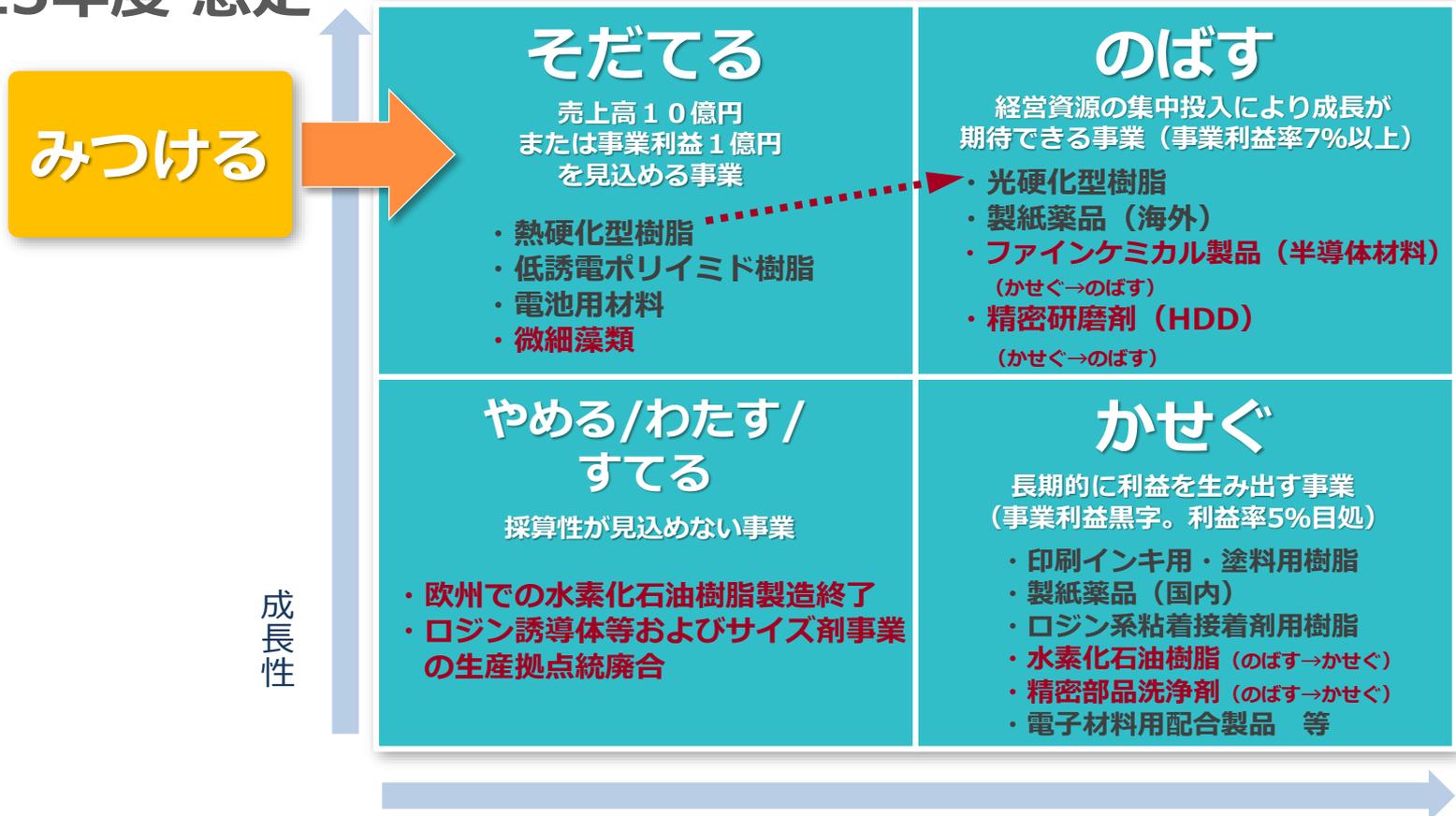
: 血圧や冷え改善作用 (SoPros社特許出願済み)

# 重点課題の進捗③ 事業のSHIFT 推進

## ■プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント

「やめる/わたす/すてる」へのSHIFTもおこない、**事業の新陳代謝を推進**

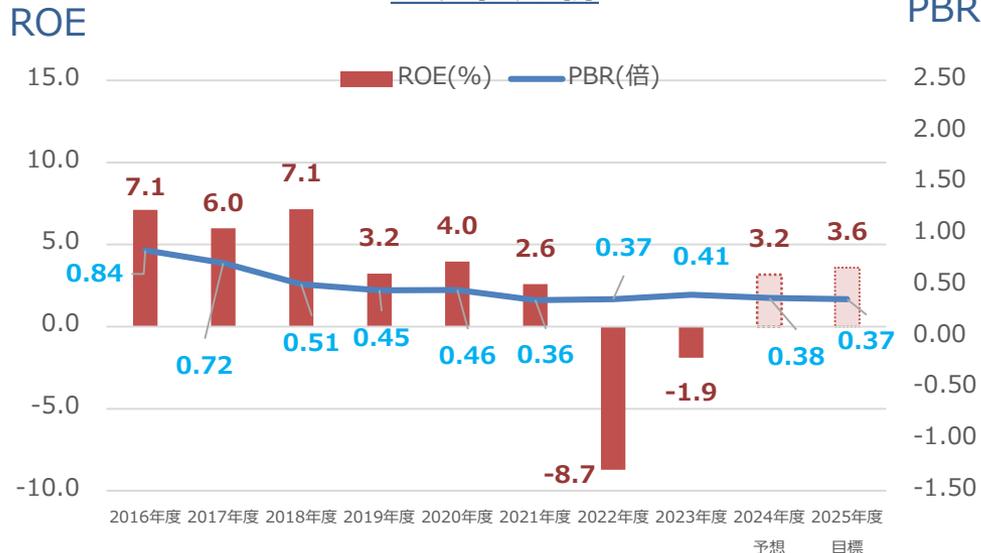
2025年度 想定



収益性

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

## ☑現状分析



- 資本コスト (WACC) は4-5%程度
- 2016年0.8倍を上回る水準まで改善 (2017年一時的に1倍超)

↓ 2022年度および2023年度は純損失  
現在はPBR0.5倍を下回る状態継続

## 資本効率の重要な指標として ROICも検討中

## ☑PBR改善に向けた取り組み

### ROE

ROE > 株主資本コスト & ROIC > WACC

#### (事業の収益性の回復と安定性)

- 中期経営実行計画の各施策を推進・実現
- 事業ポートフォリオ改革の見直しを継続
- マイルストーン

ROE7%・ROIC5%達成 ⇒さらなる向上

### PER

#### (企業価値の向上)

- 新規事業の創出による期待度アップ
- 中長期的な収益の成長性
- 積極的な情報開示

PBR =

×

4

## サステイナビリティへの取り組み

# サステナビリティへの取り組み

## KIZUNA指標

- 2050年CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロに向けた取り組み  
2025年CO<sub>2</sub>排出量：30%削減→50%削減（2015年比）  
2030年CO<sub>2</sub>排出量：50%以上削減（2015年比）\*

\*現時点では日本国内グループ（千葉アルコン製造㈱を含まず）を対象。対象範囲の拡大や削減率については次期中計で改めて検討予定



詳細はクリック

## KIZUNA指標詳細

### 安全文化の醸成

- ✓ コミュニケーション
- ✓ 人財育成
- ✓ リスクアセスメント

荒川安全伝承館研修  
(富士工場)



保安道場  
(小名浜工場)

### 働きがいと生産性の向上

- ✓ 組織風土の醸成  
(価値観の共有)
- ✓ 人事制度の設計の見直し

## KIZUNA指標

個人と会社が  
共に成長できる環境づくり

- ✓ 中核人財の育成
- ✓ 多様な専門性の結集

## 経営指標を支える人的資本投資



KIZUNAワークショップの様子

# 人財育成・活躍への取り組み

当社の人財はサステナビリティの取り組みを実施する全ての基盤  
多様な人財の尊重・能力を十分に発揮する企業として課題に取り組む

## 取り組み例

### ■ 『仕事と介護の両立サポートBOOK』を作成



### ■ KIZUNAワークショップ 価値観・行動指針の共有・実施 (山口精研工業)



### ■ 人的資本の開示

# 次代へつなぐ取り組み

## 開発目標

4 質の高い教育を  
みんなに



15 陸の豊かさも  
守ろう



## 荒川化学が提供する価値



- ・「楽しく化学する」を基本とした体験学習の実施
- ・2023年度よりYUNGA Forests Challenge Badges プログラムを実施（上段左写真）
- ・文部科学省主催の「令和5年度青少年の体験活動推進企業表彰」で同プログラムが奨励賞を受賞（下段写真）
- ・若手、中堅社員の海外研修制度
- ・先進国およびその他の開発途上国における高等教育の奨学金制度
- ・地域社会と連携した石積み体験により、KIZUNAへの自己理解を深める研修を実施（上段右）



地域の松林復元に寄与する  
「マツタロウの森」プロジェクト他の植林活動

## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

# 荒川化学工業株式会社



# 參考資料

# 参考資料①

## 荒川化学の概要

- [会社概要（詳細はこちら）](#)
- [経営方針（詳細はこちら）](#)
- [創業からの歩み（詳細はこちら）](#)
- [沿革（詳細はこちら）](#)
- [所在地（詳細はこちら）](#)

## 製品情報

- 低誘電ポリイミド樹脂
- 精密部品洗浄システム
- ファインケミカル製品
- 電子材料用配合製品

## 取り組み事例

- [安全に対する取り組み](#)
- [社外評価](#)
- [ESGの取り組み](#)
- [新規事業への取り組み](#)
- [健康経営の取り組み](#)

# 参考資料②

## 第5次中期5カ年経営実行計画（補足）

- 経営理念とビジョン
- 2030年のありたい姿
- 荒川化学の未来像
- 優先的な重要課題と5つのKIZUNA
- 基本方針
- KIZUNA経営
- 事業ポートフォリオ改革
- セグメント組み換え
- 各セグメント計画説明資料
- 海外売上高伸長率
- SLBの発行・スキームイメージ・SPTs内容・進捗について
- サステナビリティ製品のSDGsへの貢献
- サステナビリティ製品一覧と指標への影響度

## 財務情報・その他

- キャッシュフロー推移
- 売上原価・販売管理費推移
- ロジン価格の推移
- 株  
価推移
- 株式情報

# 製品情報

# 低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)



: サステナビリティ製品

## 低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)

- 処理データの高速化、大容量化（高周波化）に伴う電気信号の伝送損失を抑える
  - ⇒ 次世代通信技術「5G」で使用されるミリ波に対応可能なフレキシブル基板向け低誘電接着剤として注目される
  - ⇒ 新たな用途開拓に向けた研究開発も強化
  - ⇒ カーボンニュートラルトレンドを踏まえたバイオマス素材としてアピール

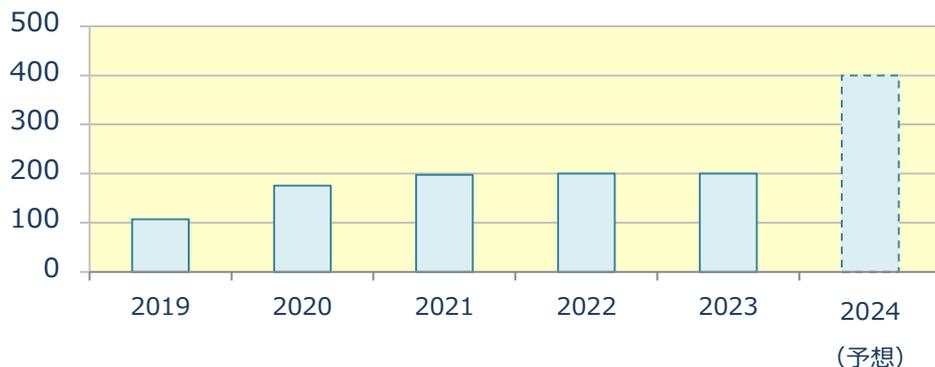


PIAD 液体外観



硬化後

売上高  
(百万円)



- 一般社団法人日本有機資源協会の「バイオマスマーク認定」を取得  
(当社製品における取得は初めて)



バイオマス  
使用部位: ポリイミド樹脂  
No.230037

■ 製品名: PIAD252



バイオマス  
使用部位: ポリイミド樹脂  
No.230036

■ 製品名: PIAD152H

# 精密部品洗浄システム



ファイン・エレクトロニクス



: サステナビリティ製品

## 洗浄実験室



### ■ 2019年6月

中国販売子会社に洗浄実験室を有する東莞分公司を開設

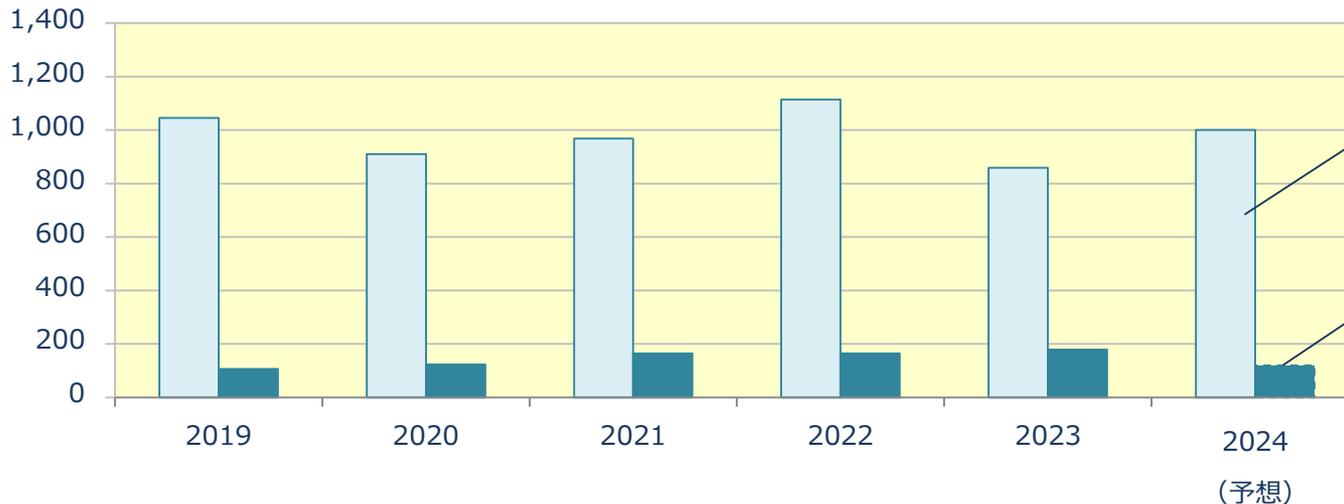
⇒精密部品洗浄事業の中国国内でのニーズに対し、

営業体制の強化および迅速なソリューション体制の提供

### ■ 廃水ゼロを目指した技術開発

売上高  
(百万円)

■ 実装基板, FC, HDDハブ, カメラモジュール,  
LED, WL-CSP, パワーデバイスなど



: サステナビリティ製品

洗浄剤 パインアルファ

洗浄装置

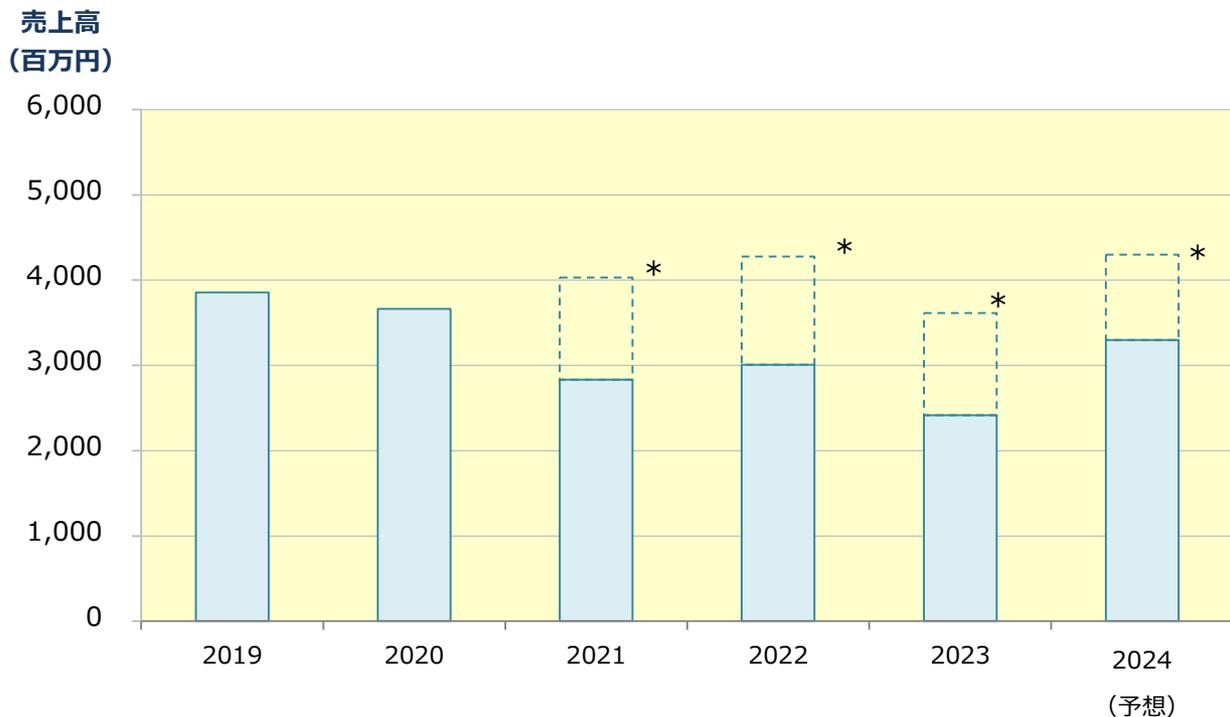
# ファインケミカル製品



：一部サステナビリティ製品あり

## 高圧化学工業

- ファインケミカル製品(中間素材)を**高度な品質管理体制**下で受託製造
- 耐腐食性高圧反応設備（ハステロイ製）で高付加価値化  
⇒アルカリから酸条件下の広範囲のpH域での使用に対応でき、通常の材質では腐食を伴う反応でも生産が可能に
- 水島工場に**新生産設備完工予定（2024年12月完工予定）**



- 電子材料用途
- 医薬品用途

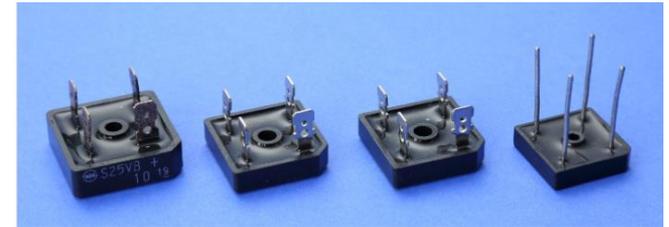
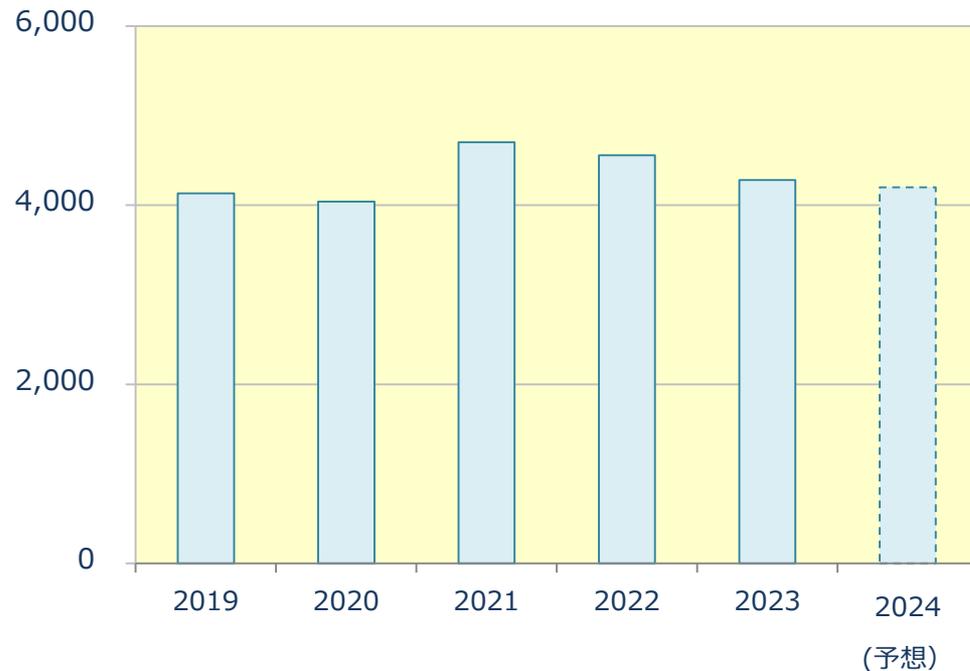
\* 新収益基準の減少分

# 電子材料用配合製品

## ペルノックス

- エポキシ樹脂、シリコン樹脂などの樹脂配合技術とフィラーの配合・分散技術に強み

売上高  
(百万円)



エポキシ樹脂用途

- 半導体モジュール
- 車載電装品
- センサー



# 取り組み事例

# 安全に対する取り組み

## 開発目標

8 働きがいも  
経済成長も



## 荒川化学が提供する価値



### 荒川安全伝承館の設置

### 小名浜工場による保安道場活動

- ・安全体感装置を使用した体験型研修・保全学習を実施

### 安全文化の醸成活動促進

- ・保安力向上センターによる保安力評価受審  
(富士工場、大阪工場、小名浜工場)



左写真：研修の様子

# 社外評価

## TOPIC

世界最大級かつ最も信頼されるサステナビリティ評価機関の一つである  
EcoVadis社による評価にて「ブロンズメダル」を取得



JAPAN  
CLIMATE  
INITIATIVE



### サプライチェーンの持続性確保

- ・カーボンニュートラル
- ・VOCの低減
- ・植林活動



## 持続的な価値創出を実現



### 炭素循環社会の実現

- ・自動車のEV化や軽量化
- ・スマート農業の促進

### 個々の能力を最大限発揮

- ・キャリア形成支援
- ・ワークライフバランスの最適化
- ・業務プロセス改革



# ESGの取り組み

ESG（環境・社会・企業統治）経営を通し、SDGsにも関連付けながら、さらに社会に貢献する

## 環境保全や技術開発による取り組み

開発目標	荒川化学が提供する価値
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>暮らしの利便性、快適性を高める製品を提供し続けるための技術開発</p> <p> 14 海の豊かさを守ろう</p> <p>* 海洋生分解性バイオマスプラスチック開発プラットフォームへ参画</p> 
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>具体的な目標を掲げた製品ライフサイクルにおける化学物質の適正管理、産業廃棄物処理活動</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>具体的な目標数値を掲げた温室効果ガス削減活動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」に参画</li><li>・カーボンニュートラルLNGバイヤーズアライアンスに加盟</li></ul>  



サプライチェーン全体での炭素循環、持続可能な調達を目指す

# 新規事業への取り組み

## 開発目標



## 荒川化学の取り組み

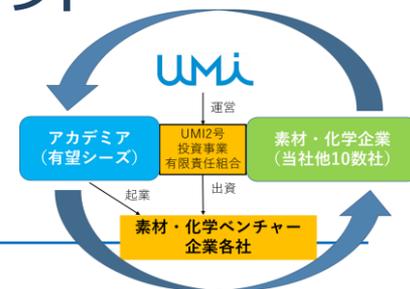
新規事業・新規テーマに関する

「社内テーマ提案・チャレンジャー育成」の運営チームを発足



ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター社 (UMI) が運営するベンチャーファンドであるUMI2号投資事業有限組合への投資

⇒素材・化学産業に特化した日本唯一のファンド

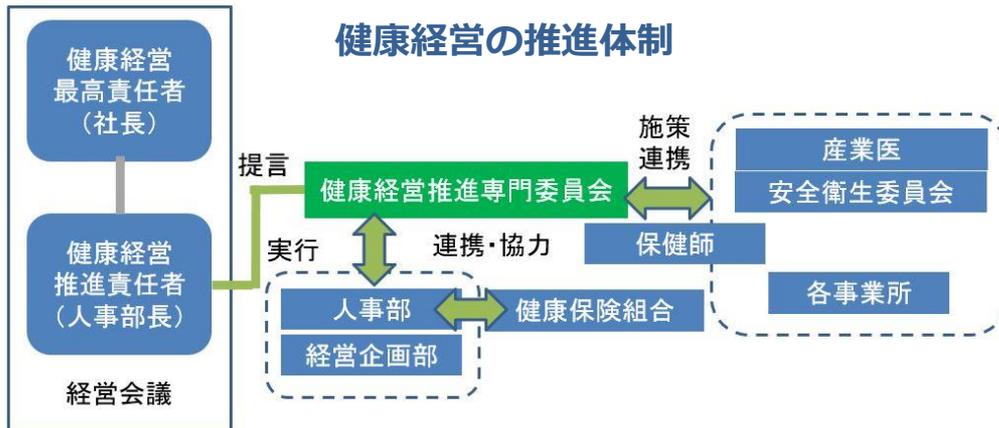


オープンイノベーションを活用した新規事業創出に取り組む

# 健康経営の取り組み

## 健康経営を通じて達成したいこと

- 従業員一人ひとりが元気に笑顔で出社できる会社づくりを行う。
- 従業員一人ひとりが仕事に集中し、能力を最大限に発揮する。
- 従業員だけでなく従業員の家族を含め、現役時はもとより退職後も健康で過ごしてもらおう。



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
順位	2001～ 2050位/ 2523社	1851～ 1900位/ 2869社	951～ 1000位/ 3169社	901～ 950位/ 3520社

## TOPICS

- 戦略マップ/KPIの策定
- 定期健康診断オプション検査の費用補助
- GLTD（団体長期障害所得補償保険）を導入
- 乳がんセミナー開催
- ラインケア研修・セルフケア研修の実施
- 社内報・社内イントラを使用した各事業所の取り組みの全社共有
- 各社員の趣味嗜好やライフプランに対応する福利厚生代行サービスの導入



# 第5次中期5カ年経営実行計画について (補足)

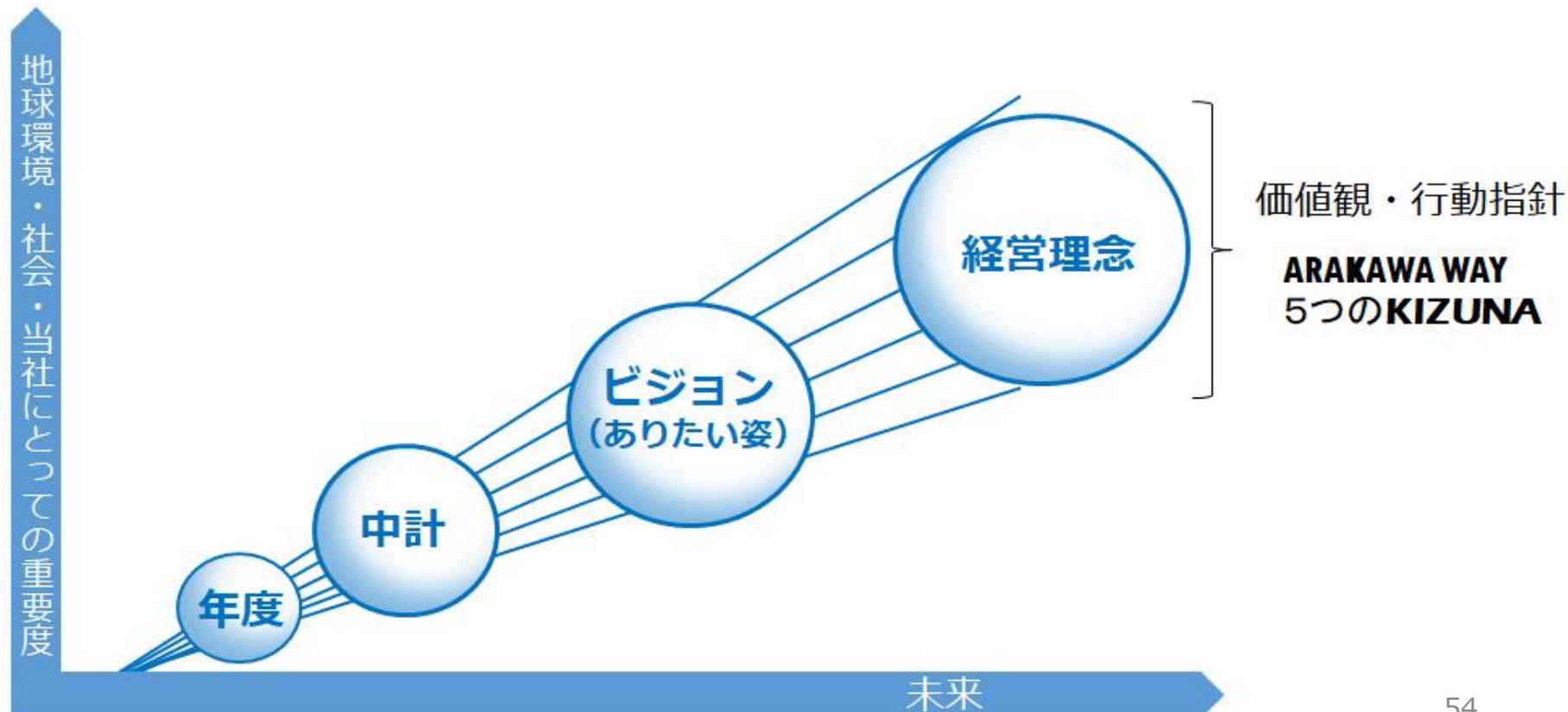
# 経営理念とビジョン

## 【経営理念】

個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する

## 【ビジョン】

つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER

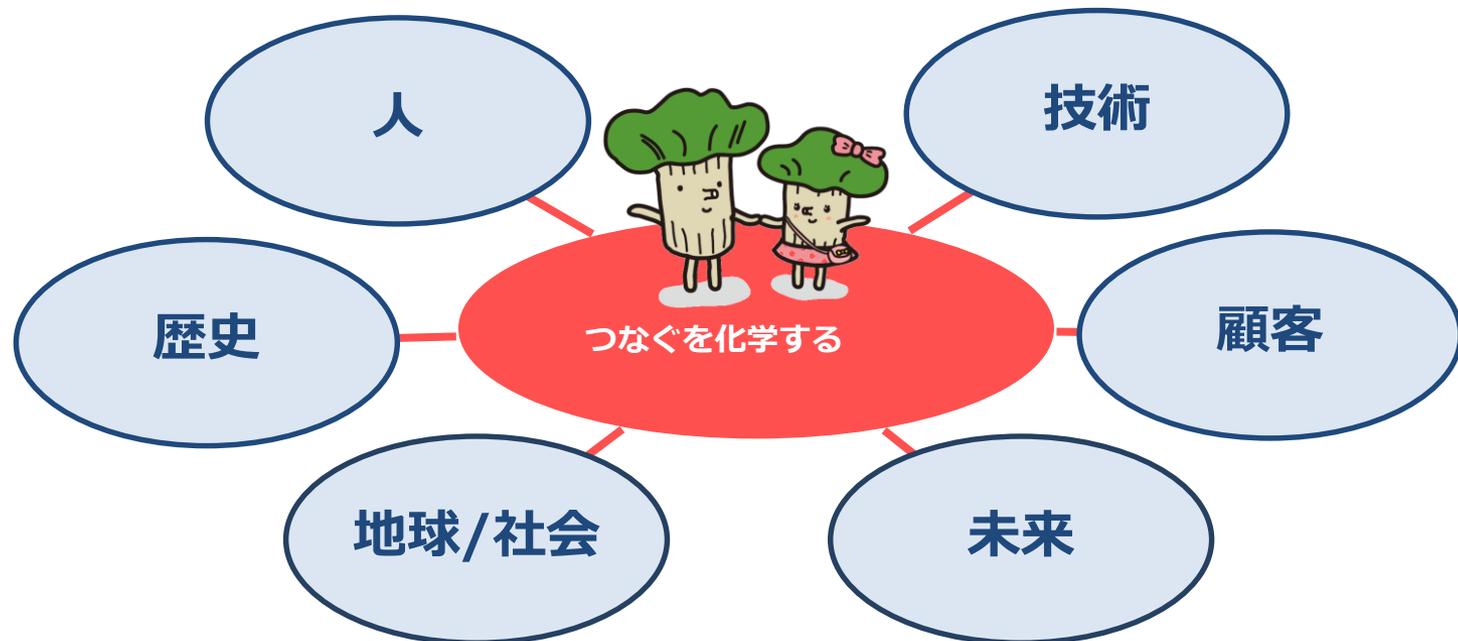


# 2030年のありたい姿

ロジンをはじめとする環境に配慮した素材を活かし、  
「つなぐ」技術の深化と新たな付加価値の創造に挑戦し続けることで、  
地球環境と社会の持続可能な未来に貢献する

つなぐを化学する

SPECIALITY CHEMICAL PARTNER



# 荒川化学の未来像（ビジョンの具現化）

- 地球環境と社会の持続的な未来に貢献するエコシステムにしっかり入り込む
- ライフサイエンス関連などの素材・REALとDIGITALを下支えするケミカルパートナーへ変革

持続可能な地球環境と社会の実現

REAL

DIGITAL

ライフサイエンス

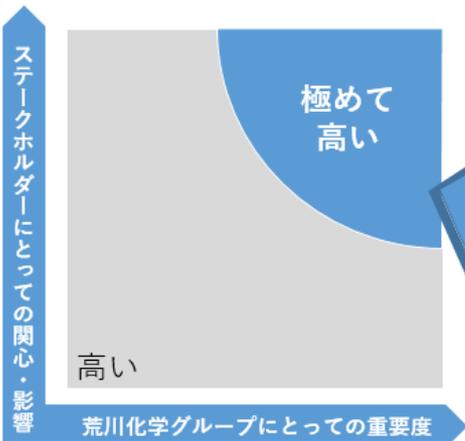
「ありたい姿」の実現

# 優先的な重要課題（マテリアリティ）と5つのKIZUNA

## ■ 優先的な重要課題として12項目を選定し、5つのKIZUNA\*との紐付け

\*荒川化学グループの価値観・行動指針「ARAKAWA WAY 5つのKIZUNA」

ESG	優先的な重要課題	5つのKIZUNA
E S	安全文化の醸成	【社会の軸】 まもる
E	環境保全の強化	
G	ガバナンスの強化	
G	事業のグローバル化推進	【人の軸】 関わりあう
S	ダイバーシティ&インクルージョン推進	【自身の軸】 主役になる
S	働きがい改革	
S	NEXT事業の創出	【技術の軸】 技術の伝承と革新
E S	マーケティング力・研究開発力の強化	
G	生産体制再構築	【顧客の軸】 お客様と共に歩む
G	健全な財務基盤	
E S	持続可能な調達と供給	
G	品質マネジメントの強化	

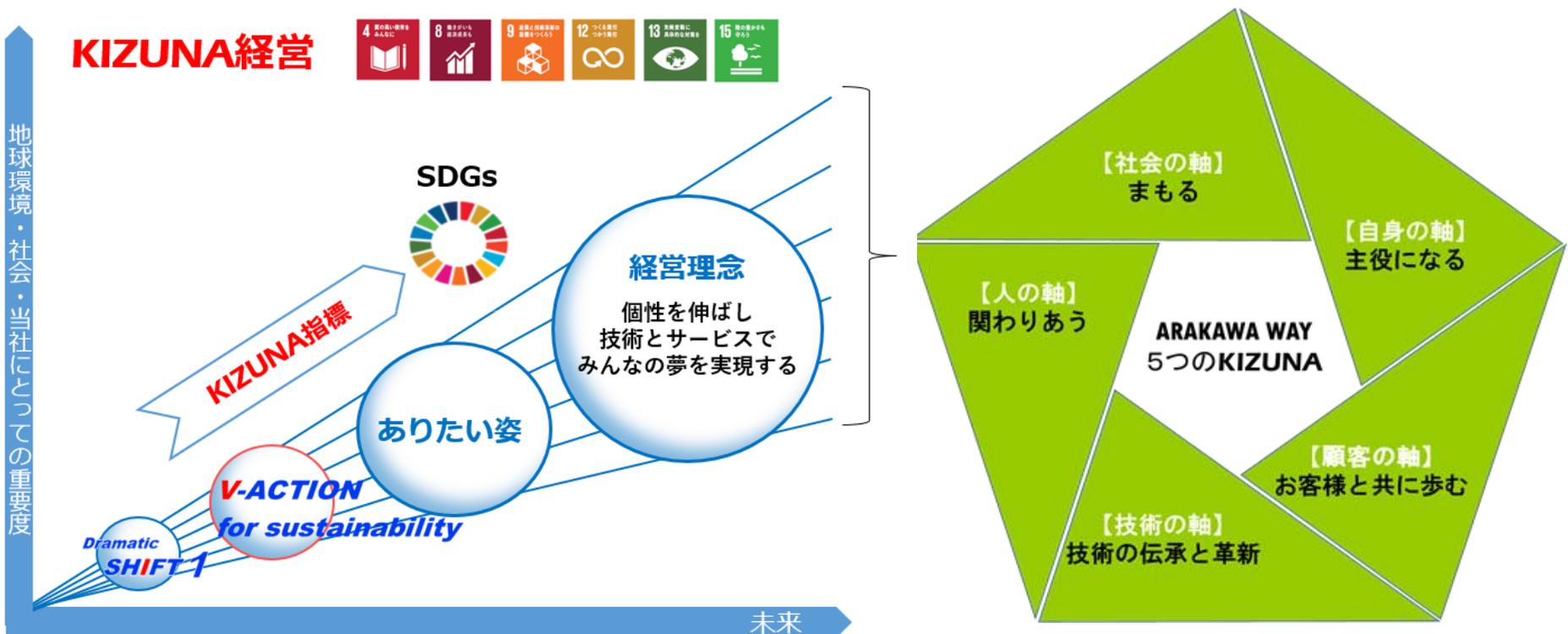


\*策定にあたってはSDG CompassやGRIスタンダードなどグローバルガイドラインを参照

# 基本方針

## KIZUNA経営の推進とKIZUNA指標の達成

KIZUNA指標：5つのKIZUNA とリンクした優先的な重要課題から設定した指標  
「ありたい姿」を実現するための指標



# KIZUNA経営



## ① サステナビリティ委員会 設置

- ・ 重要課題や関連目標の設定や見直し、進捗状況のモニタリング・評価
- ・ 事業ポートフォリオの見直しや中長期的な経営計画、方向性を決定

## ② KIZUNA推進室 設置

- ・ 個人と会社がともに成長できる体制や施策を立案
- ・ 5つのKIZUNA共有活動や働きがい改革などを通じて、企業風土の改革を目指す

## ③ 事業戦略部 設置

- ・ グローバル事業戦略の提案・推進・評価・見直し
- ・ 事業の付加価値を高め、持続可能な成長の実現を目指す

# 事業ポートフォリオ改革①

## ■コア技術・素材

荒川化学グループが提供できる価値に対して、**長期的に経営資源を投入し、事業ポートフォリオの中核とする**

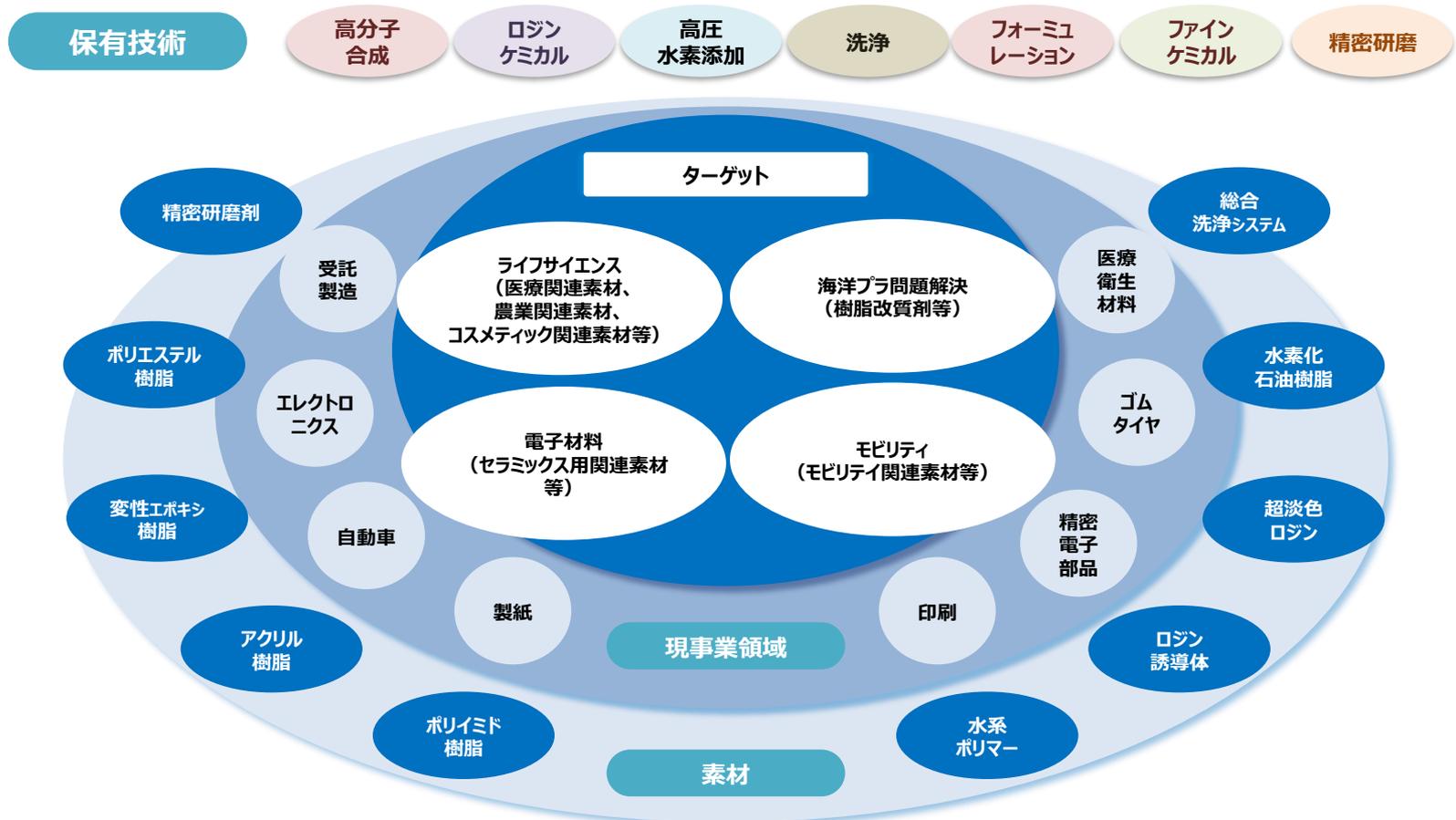
コア技術・素材	強み	方向性
水系ポリマー	重合技術	より一層環境に配慮した製品の開発 コア技術を活用した機能性材料としての新規用途展開
フォレストケミカル	原料調達 ロジン基礎技術 ロジン変性技術	持続可能な再生原料の有効活用 資源確保、高機能化 高付加価値用途への展開
水素添加	高圧水添技術・設備	グローバルでのブランド力の維持・強化 高圧水添技術の伝承と活用・展開 ブラッシュアップ
機能性材料*	スペシャリティ カスタマイズ	業界情報の集約 市場変化スピードへの対応、新規テーマ獲得 品質、生産設備の強化

\*機能性コーティング剤（光硬化型/熱硬化型樹脂）、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル、電子材料配合製品、精密研磨剤など

# 事業ポートフォリオ改革②

## ■ 現事業領域・素材と今後のターゲット分野

現事業領域に加え、**新たな事業領域での事業創出に挑戦**



# 事業ポートフォリオ改革③

- 新規事業創出の仕組みを確立し、ターゲット分野への参入に挑戦
- AI・MI活用による研究開発活動の効率化を推進

## 新規分野での実績化

ライフサイエンス  
医療関連素材、農業関連素材  
コスメティック関連素材など

海洋プラスチック  
問題解決関連素材

セラミックス用  
関連素材

モビリティ  
関連素材

など

- ・ マーケティング機能の強化
- ・ 社内テーマ提案・チャレンジャー育成の推進
- ・ 外部ソースの有効活用

みつける



成長性

そだてる	のばす
やめる/わたす /すてる	かせぐ

収益性

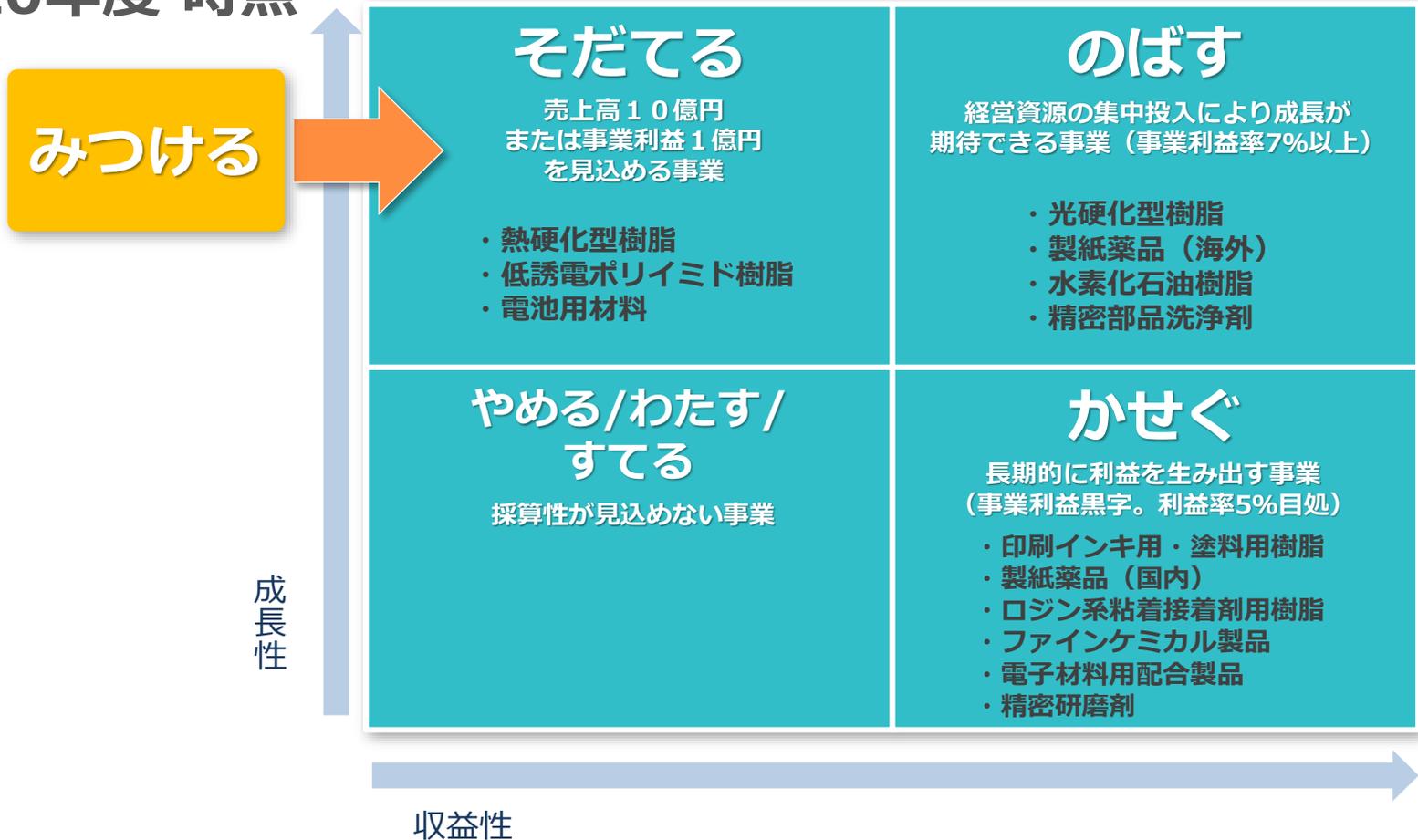


# 事業ポートフォリオ改革④

## ■プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント

「みつける」「そだてる」「のばす」ミッションへ積極的に経営資源を投入

2020年度 時点



# セグメント組み換え (2021年度より)

## 旧セグメント

### 製紙薬品事業

サイズ剤

紙力増強剤

### コーティング事業

機能性コーティング剤

印刷インキ・塗料用樹脂

合成ゴム重合用乳化剤

### 粘接着事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 など

シリコン樹脂

### 機能性材料事業

精密部品洗浄剤 など

低誘電ポリイミド樹脂

ファインケミカル

電子材料用配合製品

精密研磨剤

印は、主に  
ロジン系製品

印は、主に  
超淡色ロジン  
系製品

## 新セグメント

### 機能性コーティング事業

機能性コーティング剤

印刷インキ・塗料用樹脂

シリコン樹脂

### 製紙・環境事業

紙力増強剤

サイズ剤

### 粘接着・バイオマス事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 など

合成ゴム重合用乳化剤

### ファイン・エレクトロニクス事業

精密部品洗浄剤 など

低誘電ポリイミド樹脂

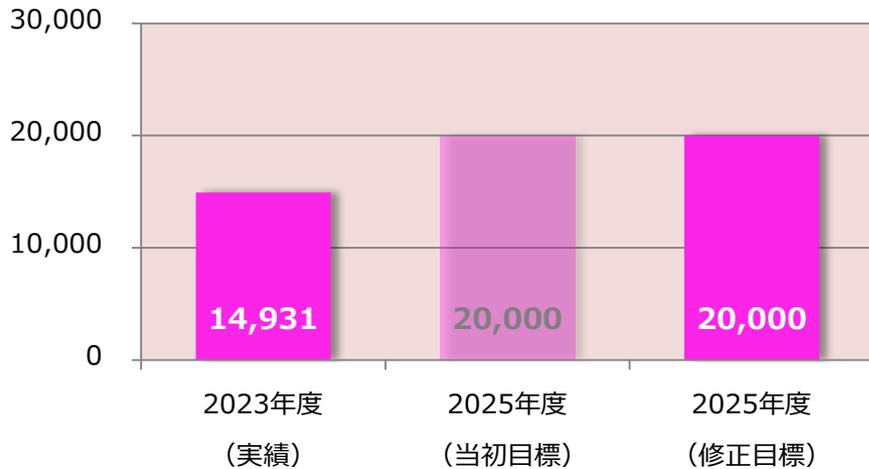
ファインケミカル

電子材料用配合製品

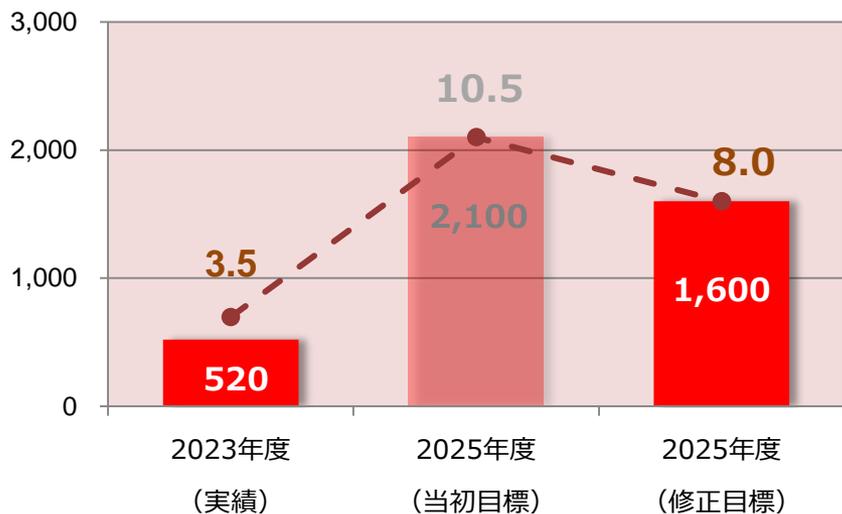
精密研磨剤

# 機能性コーティング事業

■ 売上高 (百万円)



■ セグメント利益    ● セグメント利益率



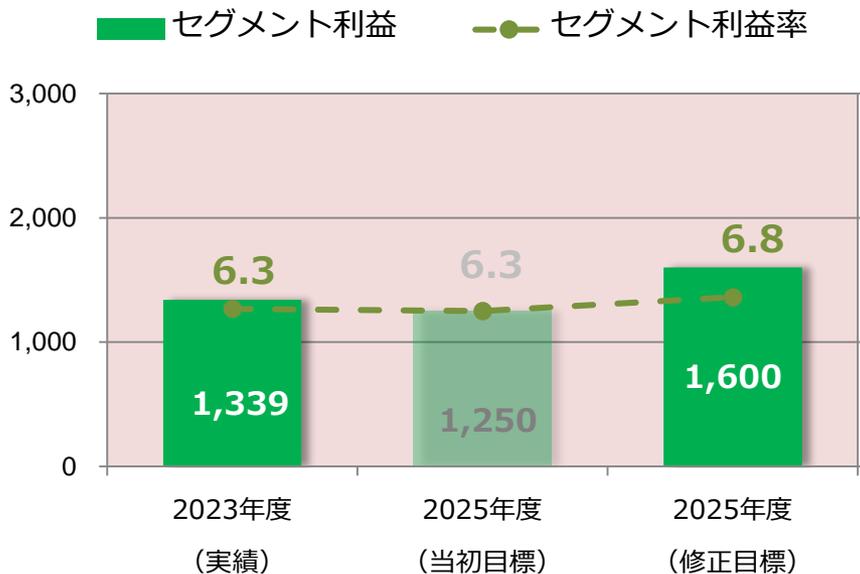
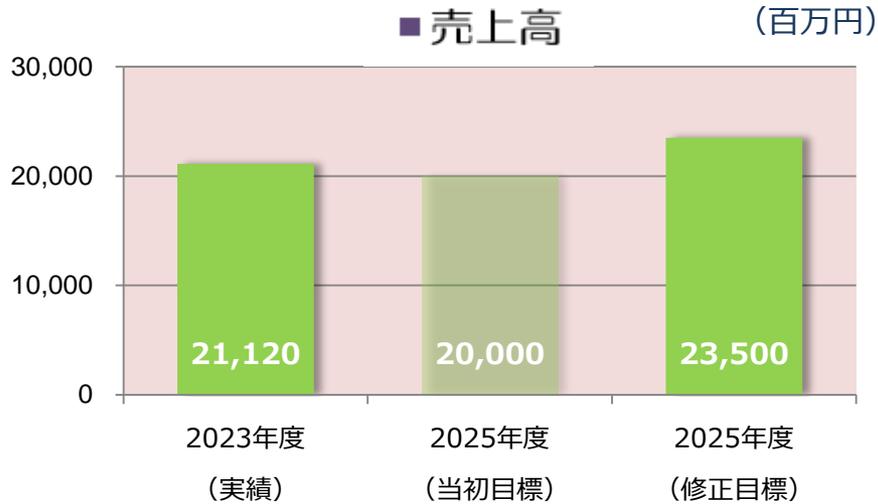
## 施策

- ・ 強固な事業基盤構築による拡大
- ・ 採算性の向上
- ・ コア技術を活かした新規テーマの創出

## 進捗と見通

- ・ 光硬化型樹脂 (ビームセット)  
2024年2月に富士工場に新プラント完成  
⇒電子部品の工程部材を中心とした将来的な需要増加に対応
- ・ 熱硬化型樹脂 (アラコート) の「のぼす」  
ミッションへの **SHIFT** 推進に向けた  
テーマの選択と集中も実績化遅れ
- ・ 印刷インキ用樹脂  
市場縮小加速も採算性改善

# 製紙・環境事業



## 施策

- ・ 海外事業の拡大戦略の加速
- ・ 採算性の向上を強力推進
- ・ コア技術を活かした新規テーマの創出

## 進捗と見通

- ・ 荒川ケミカルベトナムの稼働により業績に寄与、中国景気が下振れのなか南通荒川など海外事業の拡大戦略の加速  
(国内事業の低迷をカバー)
- ・ 採算性の向上を強力推進
- ・ 製造拠点の統廃合
- ・ 脱プラの国内外ニーズへの対応  
⇒ 食品包装などの紙素材向けコーティング剤 (フッ素代替) 市場開拓

# 粘接着・バイオマス事業

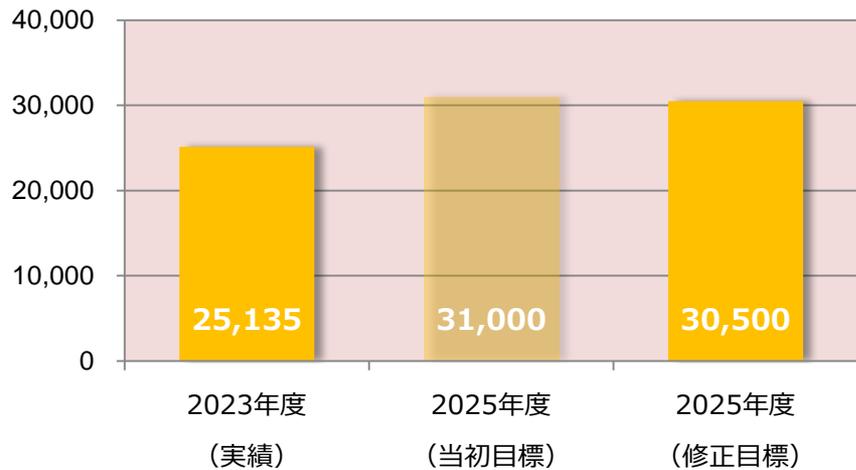
## 施策

- 水素化石油樹脂「アルコン」  
グローバルサプライヤーブランドカの維持・強化
- 「ロジンの荒川」⇒  
「Global Pine Chemicals Partner」への深化
- 松脂資源と関連事業の持続性を確保

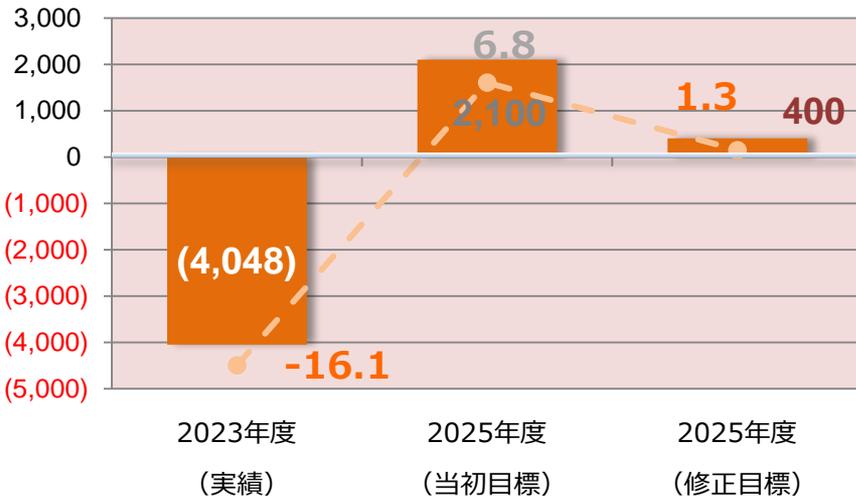
## 進捗と見通

- 水素化石油樹脂（アルコン）  
荒川ヨーロッパ社における製造終了  
⇒ 水島工場と千葉アルコン製造2拠点体制  
アルコンの安定供給と収益性の向上を目指す
- ロジン誘導体等事業  
製造拠点の統廃合、採算性の向上  
バイオマス素材としての価値を再訴求

■ 売上高 (百万円)

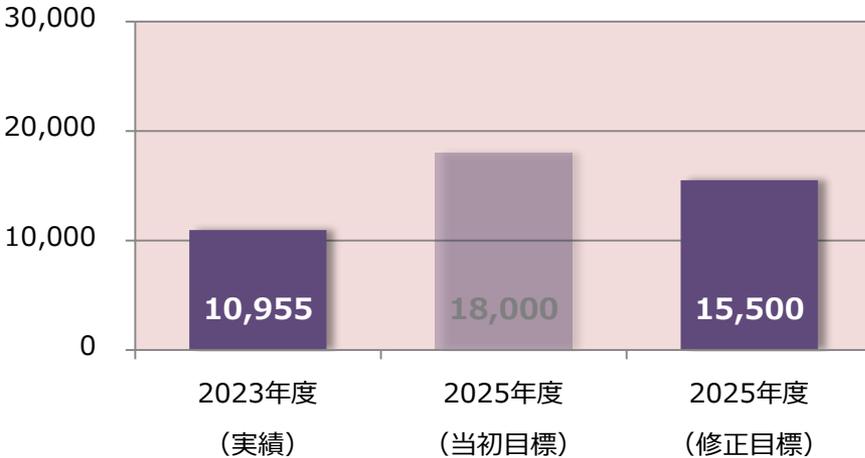


■ セグメント利益    ● セグメント利益率



# ファイナ・エレクトロニクス事業

■ 売上高 (百万円)



## 施策

- ・ 通信高速大容量化、自動車電動化を  
メインターゲット  
⇒市場ニーズに合わせて素早く連携できる  
仕組みを確立、事業のさらなる拡大

## 進捗と見通

### ■ ファインケミカル製品

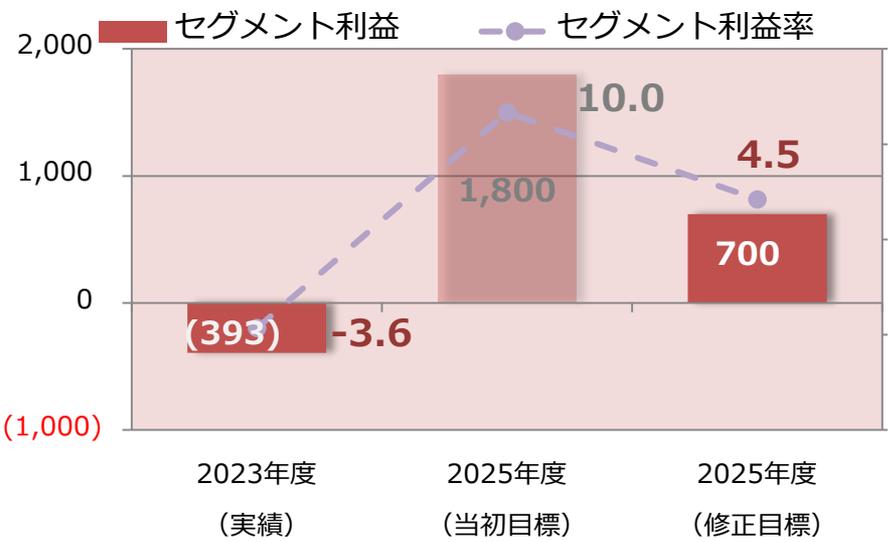
- 半導体関連材料の将来的な需要増加に対応  
⇒水島工場に新たなプラントを建設中  
高圧化学工業との2拠点体制を構築

### ■ HDD用精密研磨剤 (Neopolish)

- データセンター市場の拡大に対応  
⇒2023年11月山口精研第2工場建設、稼働を開始

### ■ 低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD) / 電池用材料

「のぼす」ミッションへの**SHIFT**推進遅れ

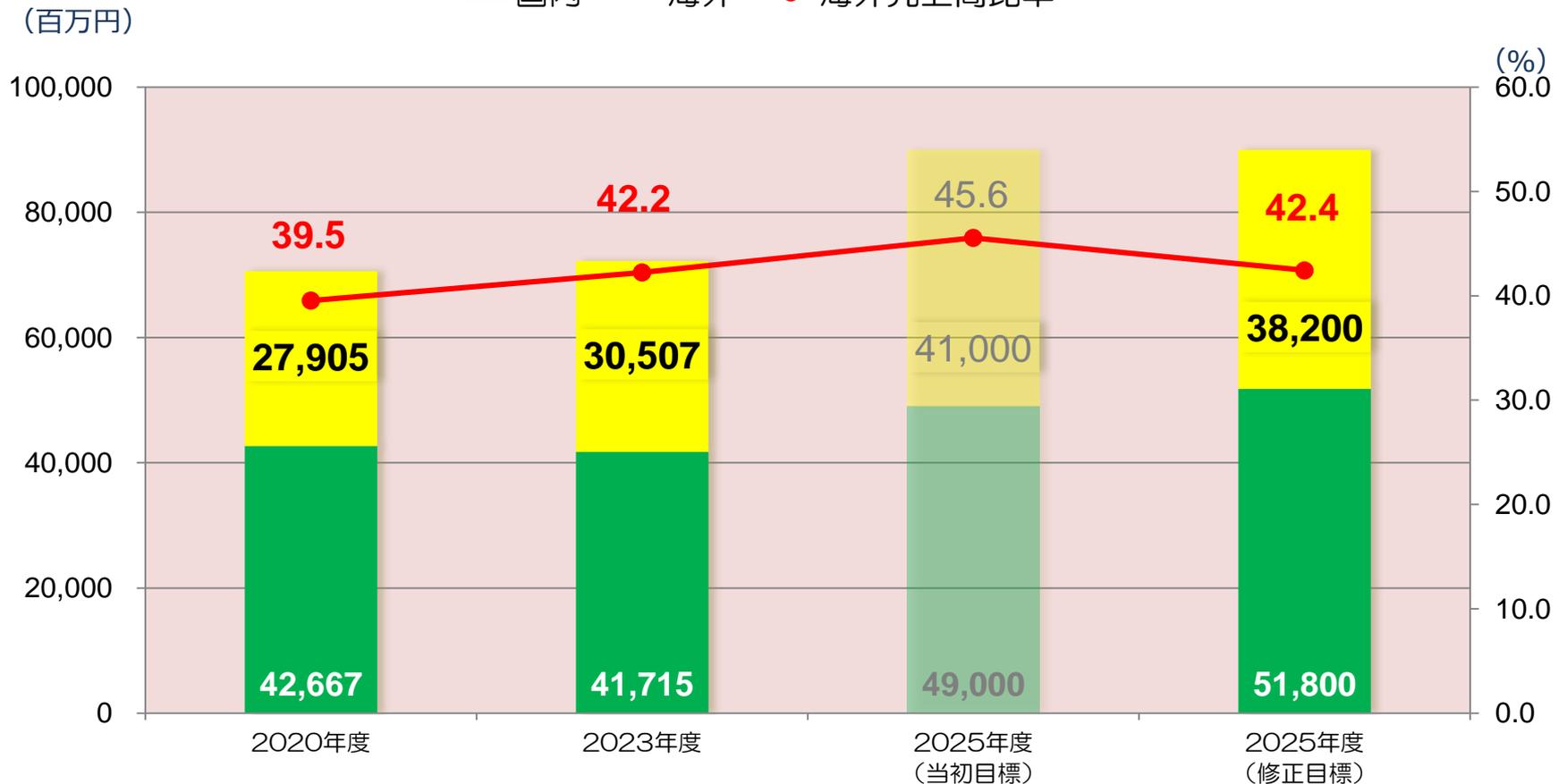


# 海外売上高伸長率

さらなるグローバル化を引き続き推進し、

2020年度比海外売上高伸長率35%以上を目指す

■ 国内 ■ 海外 ● 海外売上高比率



# サステナビリティ・リンク・ボンド（SLB）の発行

## 日本の化学業界では初(世界の化学業界7例目、国内10例目)となるSLB発行



社債の名称	荒川化学工業株式会社第5回無担保社債（社債間限定同順位特約付） （サステナビリティ・リンク・ボンド） （別称：荒川化学 マツタロウ サステナビリティ・リンク・ボンド）
年限・発行額 （各社債の金額）	5年・50億円 （1億円）
利率 （条件決定日）	年0.180% （2021年11月19日）
取得格付	A－（株式会社日本格付研究所）
引受会社	みずほ証券株式会社（事務主幹事、Structuring Agent）、野村証券株式会社、 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
SPTs	<b>SPT 1：2025年度のCO<sub>2</sub>排出量を2015年度比30%削減(Scope1+2)</b> <b>SPT 2：2025年度のサステナビリティ製品*の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ</b>
未達成の場合 （2025年度末時点）	<ul style="list-style-type: none"><li>・片方未達の場合、下記の寄付先へ、2026～2030年度の各年度で寄付を実施（社債発行額の0.30%）<ul style="list-style-type: none"><li>①CO<sub>2</sub>吸収に効果のある松の植林や苗などを植える法人・団体等（SPT1のみ未達の場合）</li><li>②将来を担う学生や子どもたちへの教育の提供や関連する法人・団体等（SPT2のみ未達の場合）</li></ul></li><li>・いずれも未達の場合<ul style="list-style-type: none"><li>①および②にそれぞれ社債発行額の0.15%相当額（合計で社債発行額の0.30%相当額）の寄付を実施</li></ul></li><li>・SPTs未達の場合の寄付の実施状況ならびにSPTsの進捗状況については、ウェブサイト上に公表</li></ul>
SLBの 適合性について	株式会社日本格付研究所（JCR）より、ICMAが策定したサステナビリティ・リンク・ボンド原則（SLBP）および環境省が策定したグリーンローンおよびサステナビリティ・リンク・ローンガイドラインに適合している旨の第三者意見書を取得

第5次中計のKIZUNA指標のうち  
サステナビリティ経営における**リスクと機会**に対する重要な指標

# SLBスキームイメージ

当社のマテリアリティに対応する取り組みとKIZUNA指標(KPI)からリスクと機会に対して重要な以下の2つを選定

KPI 1 CO<sub>2</sub>排出量の削減(Scope 1、2)

KPI 2 サステナビリティ製品の連結売上高指数

## サステナビリティ・リンク・ボンドにおける発行条件と連動するSPTs

SPT 1

2025年度のCO<sub>2</sub>排出量を2015年度比30%削減

SPT 2

2025年度のサステナビリティ製品の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ

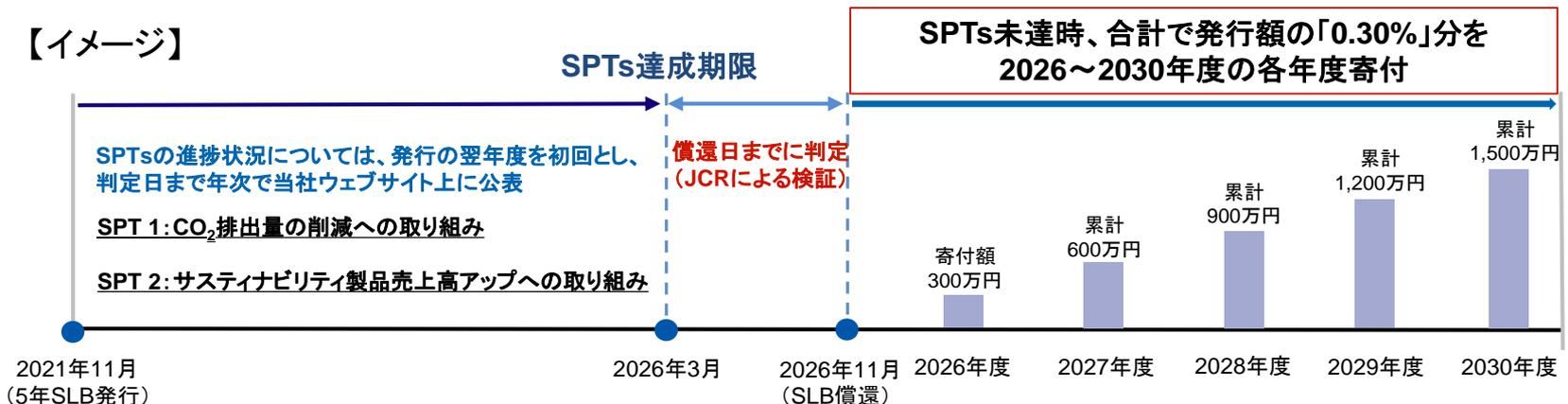
※KPI(キー・パフォーマンス・インディケーター) : 非財務情報に関する重要情報評価指標

※SPTs(サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット): サステナビリティ・リンク・ボンドの発行条件を決定する発行体の経営戦略に基づく目標

### SPTs未達時

判定日において、SPTsの目標が達成できない場合、2026~2030年度の各年度寄付を実施。  
合計で社債発行額の0.30%相当額の寄付をする。

### 【イメージ】

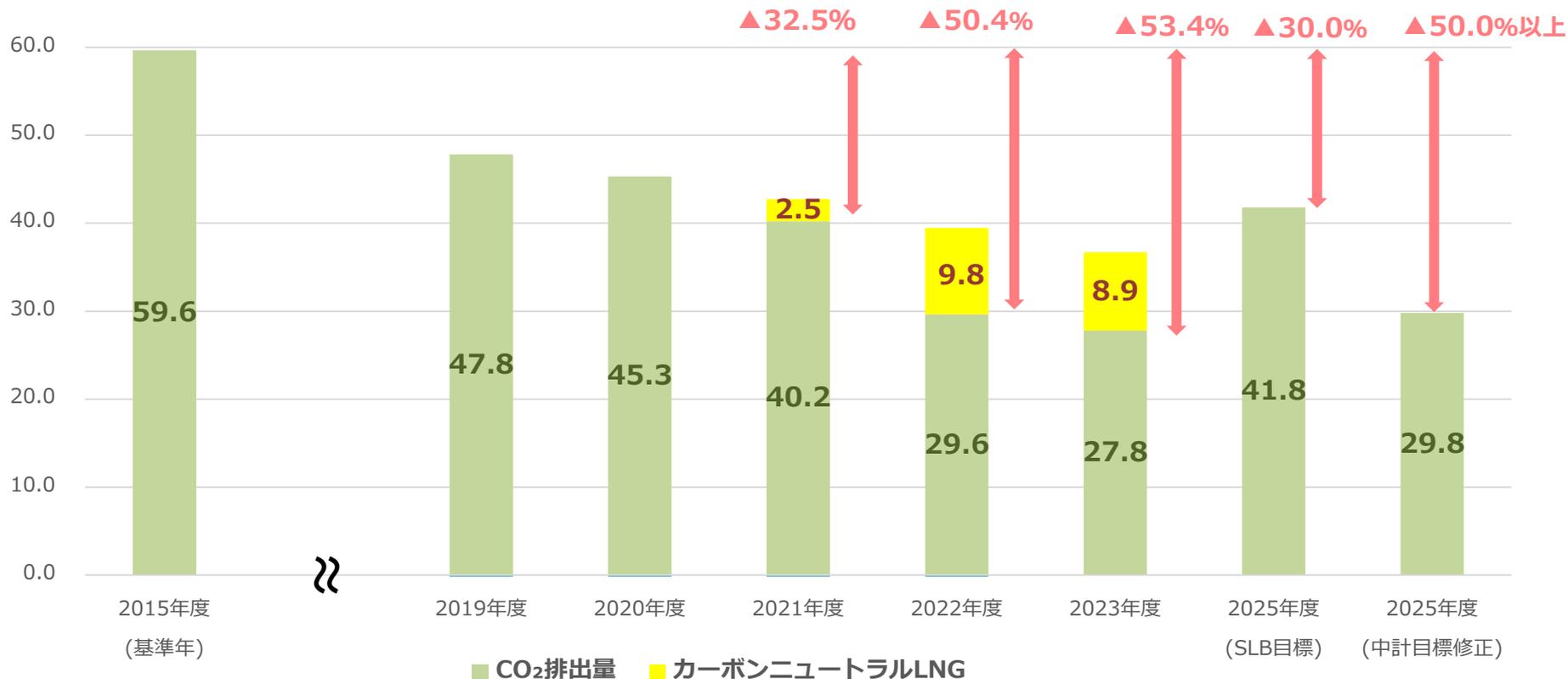


# サステナビリティ・リンク・ボンド SPT 1の進捗について

2025年度のCO2排出量を2015年度比30%削減

## CO2排出量の推移

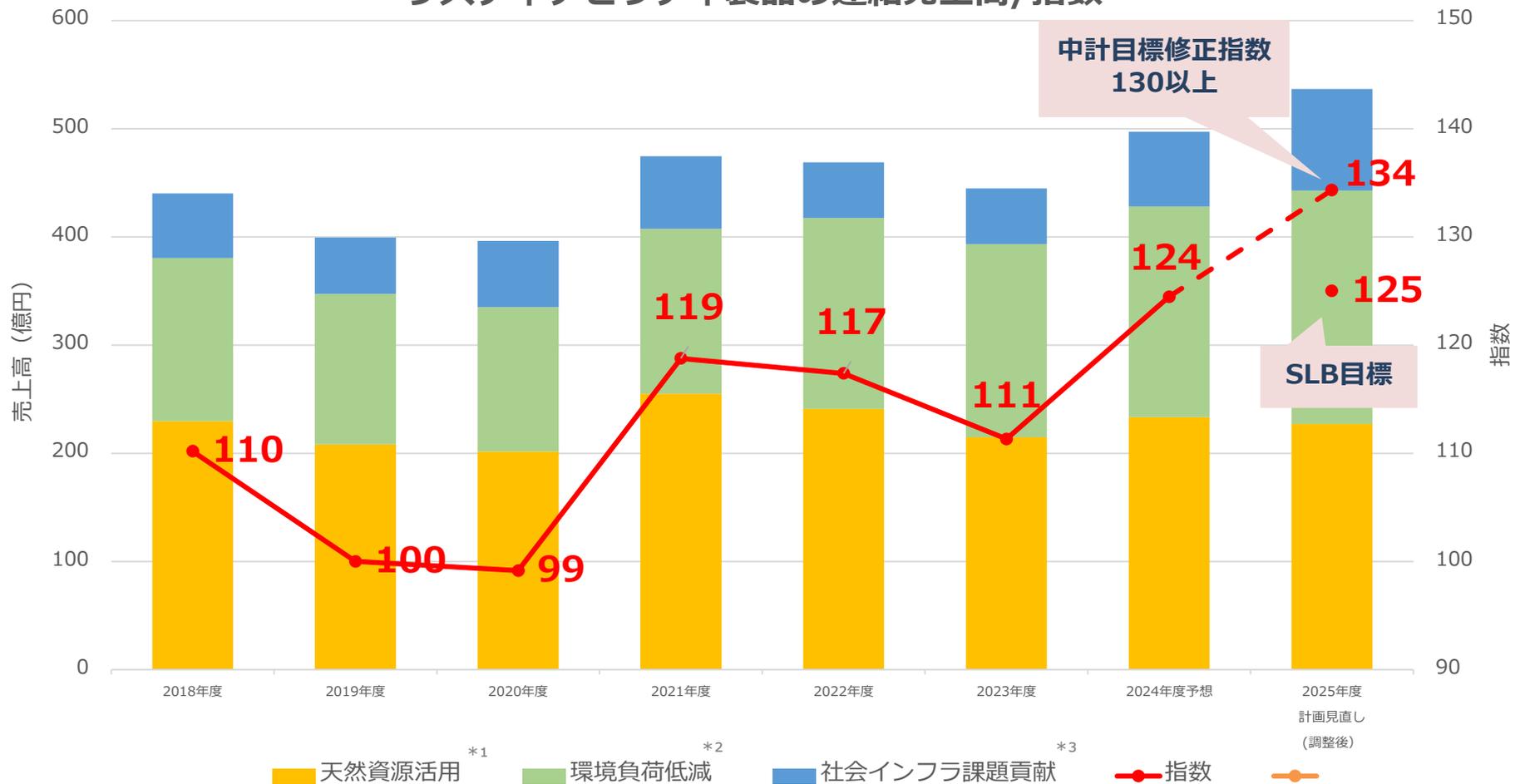
- SPT1の算定範囲として定めた単体および国内の主要なグループ会社(ペルノックス、高圧化学工業、山口精研工業)におけるCO<sub>2</sub>排出量の合計推移
- 2021年から2025年の5年間で継続的な投資を予定
  - EMS(環境マネジメントシステム)、省エネ活動(LED照明や効率化など)
  - 大規模投資省エネ(太陽光発電設置など)
  - 再エネ電気やカーボンニュートラルLNG(CNL)の購入など



# サステナビリティ・リンク・ボンド SPT2の進捗について

2025年度のサステナビリティ製品の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ

## サステナビリティ製品の連結売上高/指数



\*1 循環型素材であるロジン系樹脂の新たな用途開発により維持・拡大に努める    \*2 カーボンニュートラルな社会の構築に資する製品への需要拡大を捕捉  
\*3 社会的課題解決 (EV車、Society 5.0 を見据えた通信インフラの拡大) に資する製品の需要拡大への対応

# サステナビリティ製品のSDGsへの貢献

## サステナビリティ製品と関連する主なSDGsおよび169のターゲット

SDGs目標	169のターゲットの主な項目
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、<b>安全・安心な労働環境を促進する。</b></p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>9.4 2030年までに、<b>資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。</b>全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12.2 2030年までに<b>天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用</b>を達成する。 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、<b>製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。</b> 12.5 2030年までに、<b>廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。</b></p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13.3 <b>気候変動の緩和、適応、影響軽減</b>及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。</p>

メインの観点

# サステナビリティ製品一覧と指標への影響度

カテゴリー	製品	影響度*4	野心度*5
<b>社会インフラ課題貢献*1</b>   	光硬化型樹脂	中	↗
	低誘電ポリイミド樹脂	小	↗
	電池用材料	小	↗
<b>環境負荷低減*2</b>   	紙力増強剤	大	↗
	湿潤紙力増強剤	小	↗
	水系インキ・塗料用樹脂	小	↗
	剥離紙用コーティング剤	小	↗
	精密部品洗浄剤	小	↗
<b>天然資源活用*3</b>  	ロジン誘導体	中	↗
	超淡色ロジン	中	↗
	水系粘着・接着剤用樹脂	中	↗
	サイズ剤	中	↘
	ロジン系印刷インキ用樹脂	中	↘
	合成ゴム重合用乳化剤	中	→

\*1 5Gなど情報通信速度・量の質的改善、EV普及への貢献 \*2 古紙リサイクルの普及促進などバリューチェーンを通じた環境配慮（労働環境改善・大気汚染の防止を含む）への貢献  
 \*3天然資源活用による炭素循環社会への貢献 \*4 サステナビリティ製品の売上高に占める割合、\*5 2019年度比2025年度売上高増への貢献度

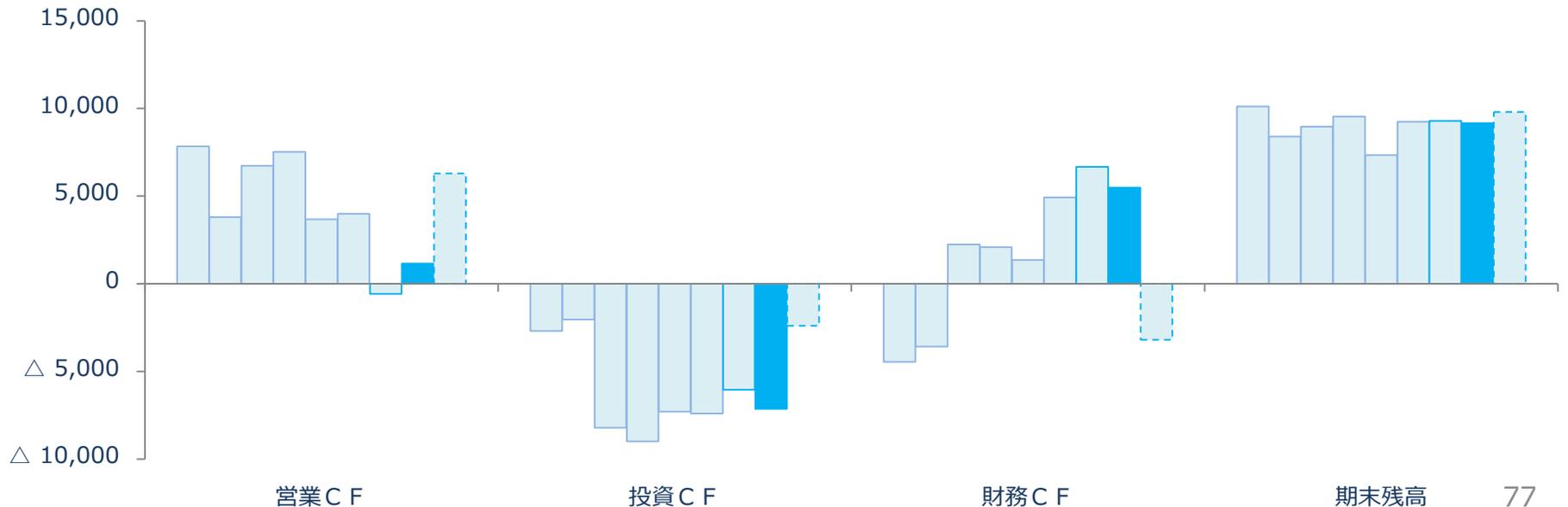
# 財務情報・その他

# キャッシュフロー推移

(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
営業C F	7,843	3,808	6,728	7,534	3,685	3,989	△ 575	1,157	6,300
投資C F	△ 2,698	△ 2,048	△ 8,208	△ 9,001	△ 7,298	△ 7,401	△ 6,046	△ 7,140	△ 2,400
財務C F	△ 4,452	△ 3,586	2,243	2,084	1,354	4,927	6,666	5,484	△ 3,200
期末残高	10,118	8,404	8,970	9,545	7,342	9,250	9,286	9,164	9,800

(百万円)

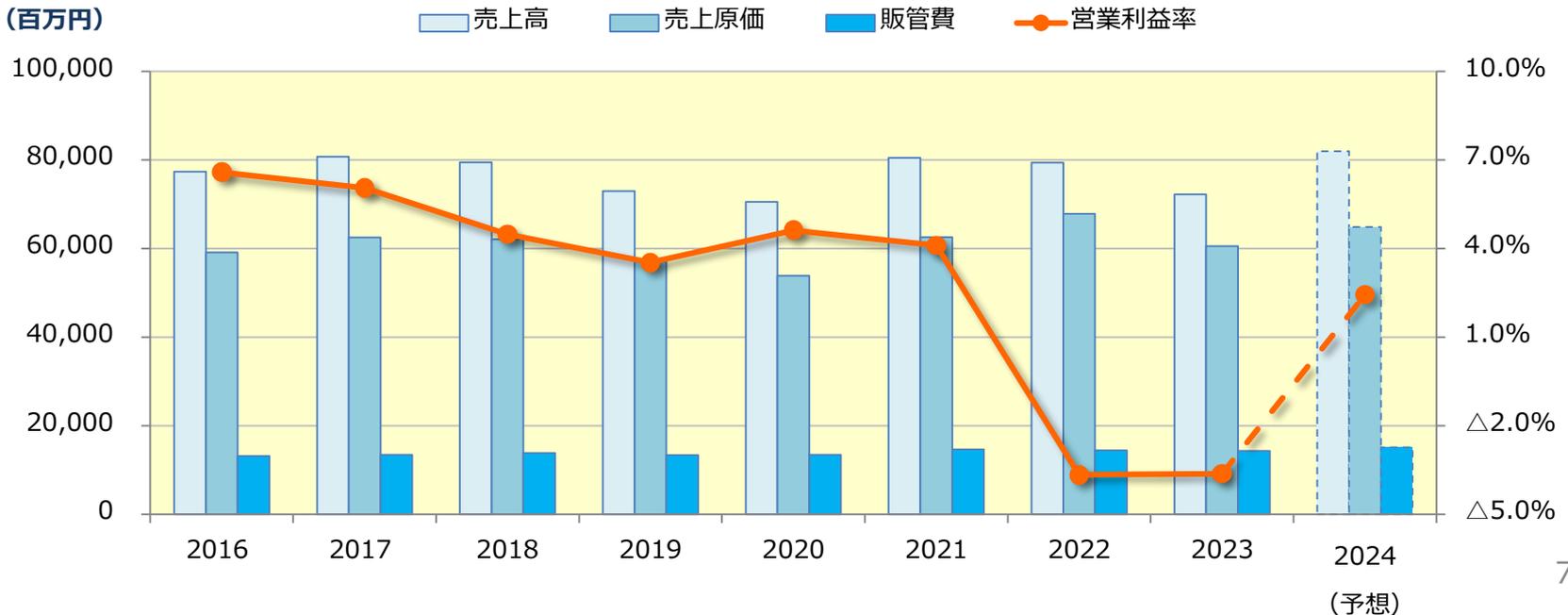


# 売上原価・販売管理費推移

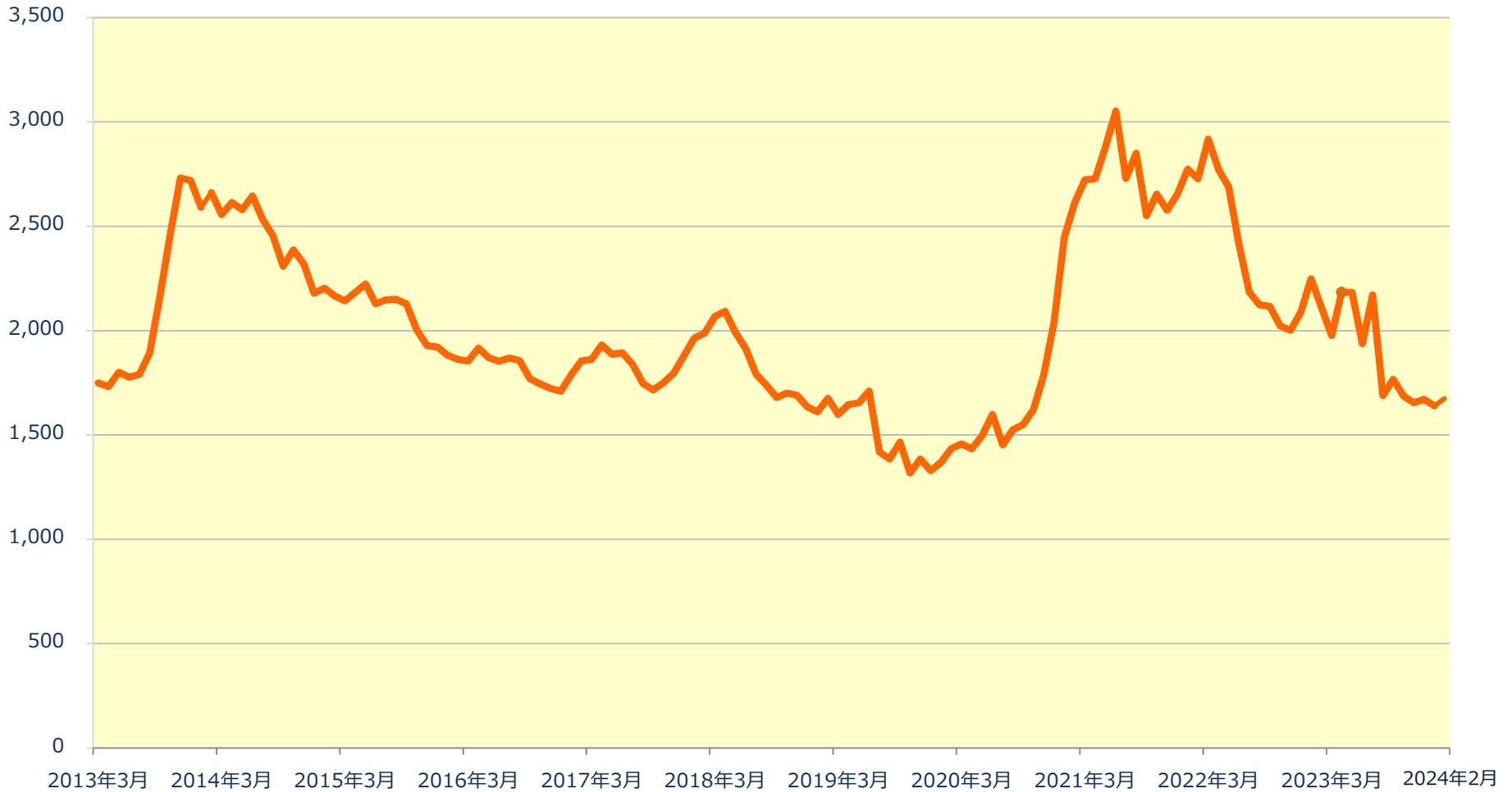
(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
売上高	77,380	80,782	79,501	72,967	70,572	80,515	79,431	72,222	82,000
売上原価	59,111	62,478	62,123	57,014	53,884	62,544	67,859	60,540	64,900
販管費	13,173	13,410	13,813	13,378	13,431	14,667	14,479	14,299	15,100
営業利益	5,095	4,892	3,564	2,574	3,257	3,304	△ 2,907	△ 2,617	2,000
営業利益率	6.6%	6.1%	4.5%	3.5%	4.6%	4.1%	△3.7%	△3.6%	2.4%
売上原価率	76.4%	77.3%	78.1%	78.1%	76.4%	77.7%	85.4%	83.8%	79.1%
販管费率	17.0%	16.6%	17.4%	18.4%	19.0%	18.2%	18.2%	19.8%	18.4%

(百万円)



# ロジン価格の推移



# 株価推移



# 株式情報

証券コード	4968
決算期	3月
上場取引所	プライム市場
単元株	100株
株価	1,091円 (2024年5月27日15:00時点)
最低所要金額	109,100円
配当利回り	4.40%
P/E R	12.02
P/B R	0.39倍
発行済株数	20,652,400株 (2023年3月末時点)
長期発行体格付	BBB+ : 安定的 (JCR)